

第37回 2026年5月1日(金)、2日(土)、3日(日・祝) 東京国際コイン・コンヴェンション

37th TOKYO INTERNATIONAL COIN CONVENTION 2026.5.1 ~ 5.3

東京・日本橋 ロイヤルパークホテル3階 **入場無料**



日本の金銀貨の礎

太閤秀吉

特集



期間中 無料鑑定・相談コーナーを設置



主催/日本貨幣商協同組合



お問い合わせ

東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル409
TEL.03-3508-1701 FAX.03-3593-1029
■ 日本貨幣商協同組合ホームページ
www.jnda.or.jp

■ 後援・出展/独立行政法人 造幣局・独立行政法人 国立印刷局
■ 後援/外務省・文化庁・日本赤十字社・中央区・フランス大使館
■ 協賛/(株)ロイヤルパークホテル

5月1日は
コインの日

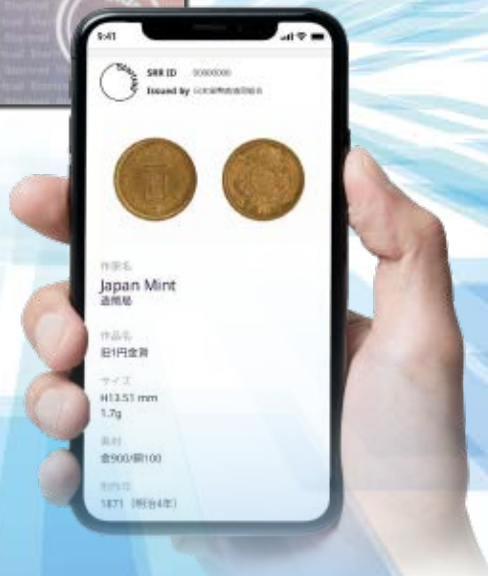
貨幣デジタル(NFT)鑑定書

デジタル鑑定書

絶対に偽造されない鑑定書。
世界中のサーバーがあなたのコインを守る!



カードにスマホをかざすだけ!



- ・世界中のサーバーがあなたのコインを守る、唯一の証明。
- ・スマホをかざすだけでその場で確認。専用アプリや複雑な操作は不要。(一部のAndroidは専用アプリが必要)
- ・鑑定書の偽造は、もう不可能。高精度な写真データで現物のすり替えも許さない。



※ JNDAオリジナルカード(画像はイメージです。)

信頼できる組合員加盟店にて、お気軽に依頼可能です。(詳しくは、P.19をご覧ください)



日本貨幣商協同組合

〒105-0004 東京都港区新橋2丁目16-1 ニュー新橋ビル409号
URL: <https://www.jnda.or.jp/>

第 37 回東京国際コイン・コンヴェンション開催にあたって

Welcome to the 37th Tokyo International Coin Convention



令和 8 年 5 月
日本貨幣商協同組合

May, 2026
Japan Numismatic Dealers Association

理事長 竹内 祐 司

Chairman Yuji Takeuchi

日本で最大級を誇る唯一の国際的コインショーで、貨幣愛好家の祭典であります東京国際コイン・コンヴェンションが今年も開催の運びとなりました。

The Tokyo International Coin Convention, the Japan's largest international coin shows and an annual festival for coin collectors, is about to open.

開催にあたり、ご後援を独立行政法人造幣局・独立行政法人国立印刷局・外務省・文化庁・日本赤十字社・中央・フランス大使館様より賜っております。永きに亘るご支援を心より感謝申し上げます。また、各地の古銭会や貨幣研究会、収集家の皆様にも多大なるご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

We would like to take this opportunity to express our sincere gratitude to the Japan Mint, the National Printing Bureau, the Ministry of Foreign Affairs, the Agency for Cultural Affairs, the Japanese Red Cross Society, Chuo City Tokyo, and the Embassy of France for their continued support. We also extend our heartfelt appreciation to domestic numismatic societies, research groups, and collectors from various regions for their invaluable cooperation.

今年のメインテーマは「太閤秀吉～日本の金銀貨の礎～」です。太閤秀吉は経済圏が分断されていた当時、その土台づくりに着手し、貨幣経済を広げる環境を整えました。さらに各地の金銀山を直轄化し、多種の金銀貨幣を铸造しました。その中で代表とされる「天正大判金」は、豊臣政権の権威を象徴する高額貨幣で、収集家にとって憧れの存在となっております。その後、徳川幕府が全国貨幣制度を確立する中で、太閤秀吉の功績がその「礎」となったことは明らかです。

The main theme of this year's event is *"Taiko (Toyotomi) Hideyoshi: The Foundation of Japan's Gold and Silver Coinage."* At a time when Japan's economy was fragmented into regional spheres, Hideyoshi began laying the groundwork for a unified monetary system and the expansion of a money-based economy. He placed gold and silver mines across the country under direct control and issued a variety of gold and silver coins. Among them, the *Tenshō Obankin*, a high-value coin symbolizing the authority of the Toyotomi government, remains one of the most coveted pieces among collectors today. Later, when the Tokugawa shogunate established a nationwide currency system, it clearly built upon the foundations laid by Hideyoshi's reforms. With the cooperation of the Japan Mint, the Japan Mint Museum, and collectors, we hope you will enjoy viewing a wide range of valuable coins in the "World of Hideyoshi."

今回も造幣局・造幣博物館及び収集家の皆様のご協力により、貴重な貨幣の数々をご覧頂き、「秀吉ワールド」をお楽しみください。

The Japan Numismatic Dealers Association, the organizer of this event, is committed to promoting the healthy growth of numismatic collecting. In the trust-based numismatic industry, the Association's activities rest on three main pillars: cataloging, event organization, and appraisal services. Our goal is to continuously modernize and enhance the annually published *Nihon Kahei Catalog — the Catalog of Japanese Coins and Banknotes —* and to establish it as the definitive "Bible" of coin collecting.

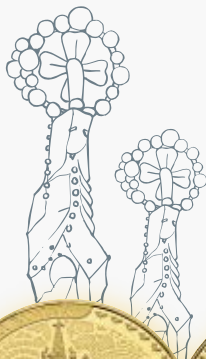
主催を務めます「日本貨幣商協同組合」は、健全な貨幣収集の発展を目指しております。信頼を基本とする貨幣業界で、組合事業の 3 本柱と位置づけているのが「カタログ事業」、「催事事業」、「鑑定事業」であります。

毎年発行している「貨幣カタログ」の近代化、充実化をさらに図り、貨幣収集の「バイブル」の存在になることを目標としています。近年、若年層を中心とした催事への来場者がとても増えています。今後も収集のきっかけとなるような啓蒙活動に力を入れ、様々な企画を取り入れてまいります。そして、収集家がより安心して商品をご購入できるために、我が国唯一の公式鑑定書の重要性について再認識したうえで、若手組合員へのさらなる育成、有識者による講演や勉強会等積極的に実施していく所存です。

In recent years, we have seen a significant rise in event attendance, particularly among young collectors. To further inspire interest in numismatics, we will continue to expand our educational initiatives and introduce a variety of new projects. To ensure collectors can purchase with confidence, we will reaffirm the importance of Japan's only official appraisal certificate. Additionally, we will actively promote training for young Association members and offer lectures and study sessions led by industry experts.

今回の東京国際コイン・コンヴェンションが、貨幣を愛する皆様のお会い・交流の場となる事が出来れば、大変喜ばしい事と思っております。

We would be delighted if the Tokyo International Coin Convention served as a vibrant gathering place where coin enthusiasts could connect, share their passion, and engage with one another.



GAUDÍ

2026


 Real Casa de la Moneda
 Fábrica Nacional
 de Moneda y Timbre
COLLECTOR COINS



Obverse: portrait of Antoni Gaudí

SAGRADA FAMILIA

GOLD COIN

8 Escudos

Diameter: 37 mm.
 Weight: 27gr.
 Metal: 999 Fine Gold
 Quality: PROOF
 Max. Mintage: 600 units

Portrait of Antoni Gaudí taken by photographer Pablo Audouard

SILVER COINS

8 Reales

Diameter: 40 mm. Weight: 27gr. Metal: 925 Fine Silver Quality: PROOF Max. Mintage: 4000 units



Common obverse

SAGRADA FAMILIA

PARQUE GÜELL

CASA MILÁ



SAGRADA FAMILIA



PARQUE GÜELL



CASA MILÁ

Common obverse

GOLD COINS

2 Escudos

Diameter: 23 mm.
 Weight: 6,75 gr.
 Metal: 999 Fine Gold
 Quality: PROOF
 Max. Mintage: 1.300 units



王立スペイン造幣局



日本のコイン収集家の皆様へ スペイン王立造幣局を代表して

スペイン王立造幣局が、日本最大にして国際的にも高い評価を受けている貨幣イベント「第37回東京国際コイン・コンヴェンション2026」に、ゲスト・オブ・オナーとして参加できることを大変光栄に思います。

本コンヴェンションでご紹介するコインを通じて、スペインの貨幣文化に、少しでもご関心をお寄せいただければ幸いです。

私たちは、卓越した技術、革新、そして長い伝統を大切にしながら、世界におけるコイン収集文化の発展に貢献してまいりました。本年もその取り組みを象徴するさまざまなプロジェクトや貨幣プログラムを、選りすぐってご紹介いたします。

2026年は、20世紀で最も影響力のあるスペイン人建築家の一人、アントニ・ガウディの没後100周年にあたります。この重大な節目の年を記念し、私たちは、彼の芸術的遺産と文化的影響力に敬意を表する記念コイン・コレクションを発行いたします。特に注目すべきは、近年、最後の塔が完成したサグラダ・ファミリアをテーマとするコインです。

この夏には、8か国のパートナー国との協力のもと製作された、イベロアメリカ文化遺産へのオマージュである「イベロアメリカン・シリーズ第14弾」を発売いたします。この長年にわたる取り組みは、地域全体の文化的・貨幣学的協力の象徴となっています。

また、アメリカ合衆国独立250周年を記念し、ヒスパニックの人々の貢献を称える、全10種類の記念コイン・コレクションもご紹介できることを光栄に思います。このうち3種類は2025年に、残り7種類が2026年に発行されました。

2025年、私たちは世界有数の貨幣学機関として知られるスペイン王立造幣局博物館をテーマとした記念コインシリーズを発行しました。本シリーズは、当館所蔵の貴重な貨幣を題材とした第2弾であり、今回はポトシ、リマ、グアテマラ、メキシコなど、歴史的にアメリカ大陸の造幣局で鑄造された貨幣に焦点を当てています。

さらに昨年、カナダ、メキシコ、アメリカ合衆国で開催されるFIFAワールドカップに向けて創設されたFIFAコインプログラムに参加する栄誉をいただきました。当局からは、卓越した記念コイン3種類を発行しております。

また3月には、国際女性デーを記念するシリーズの発行を継続し、社会・文化・科学の発展に大きく貢献してきたスペイン人女性の功績を称えました。本年は著名なスペイン人作家アルムデナ・格蘭デスを顕彰するコインを発行いたします。

加えて、カナダ王立造幣局との初の共同発行となる特別セットを発表できることを光栄に思います。この特別セットには、2種類の1オンス銀貨が含まれており、アメリカ大陸、特にカナダで初めて流通したコインとして知られるスペインの「8レアル銀貨」に敬意を表したものです。

最後に、スペインを象徴する野生動物をテーマとした地金型コインプログラムもご紹介いたします。イベリアオオヤマネコ、雄牛、カルトゥジオ馬、インペリアル・イーグル、ヒグマなど、スペインの豊かな自然を象徴する動物たちがデザインされています。

この場をお借りし、日本貨幣商協同組合ならびに本コンヴェンションの実行委員会の皆様へ、心よりお祝いと敬意を表します。ぜひ私たちのブースにお立ち寄りいただき、最新の発行貨をご覧いただければ幸いです。

日本の皆様へ心より感謝申し上げます。どうぞ私たちのブースにお立ち寄りください。

Isabel Valdecabres Ortiz
局長 (CEO)
王立スペイン造幣局

 **The Singapore Mint**
www.singaporemint.com

EXCELLENCE IN CRAFTSMANSHIP



Free Gift with Purchase
While stocks last.



YOU COLLECT. WE PROTECT.

Leading coin and banknote authentication, grading and collecting resources.



PCGS ASIA
Facebook



WhatsApp
Official Account



Instagram
@pcgsasia



大切なコイン、紙幣、切手、トレカは 専門家にお任せください。



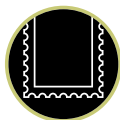
コインの
真贋鑑定、状態評価、
ホルダー封入

NGCcoin.hk



紙幣の
真贋鑑定、状態評価、
ホルダー封入

PMGnotes.hk



切手の
真贋鑑定、状態評価、
ホルダー封入

ASGstamps.hk



トレカ
真贋鑑定、状態評価、
ホルダー封入

CGCcards.hk



**CERTIFIED
COLLECTIBLES
GROUP**

お問い合わせはCCG香港支社へ。
+852 2115 3639
Service@CollectiblesGroup.hk



CCG Hong Kong



MDC

MONACO

買取・販売・鑑定のもネ・ド・コレクション

第18回オークション 2026年5月13日(水)・14日(木)・15日(金) 開催



biddr

NGC
Numismatic Guaranty Corporation
AUTHORIZED DEALER

PCGS
AUTHORIZED DEALER

SIXBID.COM
CERTIFIED
AUCTIONEER

お問い合わせはこちらまで

所在地 : 27 avenue de la Costa 98000 Monaco Monte-Carlo Tel: +377 93 25 00 42 / Fax: +377 97 77 23 13

Email: info@mdc.mc Site: www.mdc.mc

第37回東京国際コイン・コンヴェンション 特別展示品

TICC

「太閤秀吉 ～日本の金銀貨の礎～」と銘打った特別展示です。
造幣局造幣博物館の名品はもとより、全国の収集家のコレクションが一堂に集まります。
国内最大の東京国際コイン・コンヴェンションならではの豪華な展示となりました。

1. 武蔵墨書小判金と石州丁銀切遣いの展示

豊臣秀吉政権下において徳川家康が橋本庄三郎（後の後藤庄三郎光次）に命じて鑄造させた領内通用貨幣の武蔵墨書小判金を特別展示致します。天正大判金と同様の鍮目を施し、上下に扇枠の桐紋極印が打たれ、「壹両・光次・花押」、そして右側に「武蔵」の墨書が記されています。後の江戸期小判金の源流となる貨幣史において非常に重要な逸品です。さらに、文禄の役に際し、毛利氏が公用銀として差し出したとされる石州丁銀切遣いも並べて展示致します。いずれも現存数わずか数点の稀少品ですので是非この機会にご覧下さい。展示品は造幣局造幣博物館所蔵品です。

2. 天正大判金と古丁銀、太閤金銀銭の展示

天下を掌握した豊臣秀吉が金工の名門後藤家第5代徳乗に命じて鑄造させた日本最初の大判金である天正大判金を展示致します。また、太閤金銀銭と呼ばれる恩賞用に使われた金貨や銀貨、さらに江戸期以前の古丁銀や切銀など稀少品の数々を展示致します。展示品は全国の収集家のコレクションです。

第37回東京国際コイン・コンヴェンション 企画品

TICC

今年も「東京国際コイン・コンヴェンション貨幣セット」の販売はございません。

特製クリアファイル

ご来場のお客様に
無料進呈いたします！

人気の大判をあしらったオリジナル・特製クリアファイルです。

？
どのような
デザインかは
当日配布まで
お楽しみに！

こどもスタンプラリー ※先着 250 名様

スマホで各国造幣局を巡って、二次元コードを集めると、プレゼントがもらえます。以下の2日間で開催いたします。（※参加にはスマートフォンが必要です）

5月2日（土） 11～17時
3日（日・祝） 10～16時



入場者全員の中から抽選で豪華賞品が当たります

期間中、入場者全員の中から抽選で豪華賞品をプレゼント！応募方法はダイレクトメール封筒または、会場設置の応募用紙にご記入ください。
※お一人様ご応募は1回のみです。

●TICC 金賞 2名様



旧1円銀貨 明治3年 日本貨幣商協同組合鑑定書付

●TICC 銀賞 3名様（各1点）



国立公園制度100周年記念貨幣

●TICC 銅賞 10名様



第37回 TICC 記念クオカード

※抽選結果は後日、発送をもってかえさせていただきます。

※画像はイメージです。

チャリティーくじ

TICC

今年もチャリティーくじを行います。各国造幣局、出店ディーラーよりたくさんの賞品を提供していただきました。東京国際コイン・コンヴェンションは少しでも日本赤十字社が行う赤十字活動のお役に立てるよう、チャリティーくじの売上は全額、日本赤十字社へ寄付させていただきます。ご来場の皆様には是非ともご協力をお願い申し上げます。

クラウンルームにて
チャリティーくじを開催中です！
【開催時間】5月1日（金） 12:00～
2日（土） 11:00～
3日（日・祝） 11:00～

※賞品がなくなり次第終了となります。



第37回東京国際コイン・コンヴェンション 特別販売品 TICC

※写真はイメージです。

文政小判金

文政2年(1819)始鑄の文政小判金は、裏面に草書体の「文」字が極印されているのが特徴です。通用期間が短かったため状態の良いものが比較的多く、仕上げも綺麗な小判です。また、座人印と棟梁印の組み合わせが豊富なことでも知られ、特に「七福小判」は福を招来するにふさわしいとして高い人気を誇ります。

美品以上のものに日本貨幣商協同組合推奨プレートをお付けしております。



推奨プレート付

美品
日本貨幣商協同組合鑑定書付
280,000円(税込)

慶長一分金

慶長6年(1601)の幣制により誕生し、約一世紀にわたり鑄造された慶長一分金。形状は額一分金を踏襲しており、江戸座・京座・駿河座の三座に分類されます。長期間にわたって造られたため、書体や極印などのバラエティに富んでいます。

美品以上のものに日本貨幣商協同組合推奨プレートをお付けしております。



[150% 拡大図]



推奨プレート付

美品
日本貨幣商協同組合鑑定書付
190,000円(税込)

嘉永一朱銀・明治一朱銀 2種セット

嘉永6年(1853)、黒船が浦賀に来航したため江戸幕府は急遽、品川沖にお台場を築きました。その時の人夫1日分の労賃(250文)として支払われたのが嘉永一朱銀です。

そして、明治維新直後の政權過渡期に貨幣司管理のもと製造されたのが明治一朱銀です。

明治一朱銀は、裏面「常是」の常の字の頭部が川状になっており、川常一朱銀とも呼ばれています。

これら2種の美品をセットにしてご提供いたします。



美品 **4,500円(税込)**

高橋是清 50円札

昭和26年(1951)に発行され、表面には高橋是清、裏面には日本銀行本店の旧館が描かれています。日本銀行での取扱期間は3年半ほどで極めて短命の紙幣です。

未使用品を特別価格にてご提供いたします。



未使用
6,000円(税込)

記念貨幣

国立公園制度100周年



国立公園制度100周年記念貨幣のうち、令和8年度発行分までを一覧にてご紹介します。

本シリーズは、令和13年まで順次発行（年間5公園程度）することとしていますので、今後ご期待いただければ幸いです。

令和8年度前半発行分

吉野熊野国立公園

大山隠岐国立公園



申込受付は終了しました

令和8年度後半発行分

十和田八幡平国立公園

富士箱根伊豆国立公園

伊勢志摩国立公園



令和8年7月7日(火)受付開始予定

これまでに発行された貨幣

これらの記念貨幣については既に申込受付を終了しておりますが、当選された方がキャンセルされた場合は、残数を造幣局オンラインショップ及び造幣局ミントショップで販売(先着順)することがあります。

令和6年銘

西表石垣国立公園

慶良間諸島国立公園

やんばる国立公園

瀬戸内海国立公園

雲仙天草国立公園

霧島錦江湾国立公園



令和7年銘

阿寒摩周国立公園

大雪山国立公園

中部山岳国立公園



令和8年銘

日光国立公園

阿蘇くじゅう国立公園



※画像はイメージのため、現物とは異なります。

造幣局は会場での貨幣セット等の販売は行いません。

独立行政法人造幣局

詳細は造幣局ホームページをご覧ください

(URL) <https://www.mint.go.jp/>



造幣さいたま博物館(さいたま支局)



展示室のほか、平日には工場の自由見学もできます。
館内にミントショップもあります。

【開館時間】午前9時~午後4時30分(入館は午後4時まで)

【休館日】水曜日/年末年始(ほか臨時休館、臨時開館あり)

【お問合せ先】さいたま市大宮区北袋町1-190-22

Tel.048-645-5899(月~金曜日(祝日を除く))

Tel.048-645-5990(土・日曜日/祝日)



お近くに
お立ち寄りの際は、
ぜひお越しください!





独立行政法人

国立印刷局

第37回TICC

特別展示

「昭和100年記念 昭和のお札・切手を輝かせた工芸官の技」

本年は、昭和元年（1926年）から起算して満100年を迎えます。これを記念し、本コーナーでは、昭和期に活躍した印刷局の専門職員・工芸官の彫刻技術とその製品をご紹介します。



昭和期のお札の代名詞となった聖徳太子
日本銀行券 C1 万円 昭和33(1958)年

戦中から高度経済成長期まで、激動の昭和期に師弟の工芸官が受け継いだ技法と、これを活かした珠玉のお札や切手とともに、昭和を振り返る機会となれば幸いです。



師弟が彫刻した岩倉具視の肖像
(左) 日本銀行券 B500円 (部分) 昭和26(1951)年
(右) 日本銀行券 C500円 (部分) 昭和44(1969)年

ちょっと足を延ばして お札と切手の博物館



東京都北区王子 1-6-1 TEL 03-5390-5194

開館時間 9:30 ~ 17:00

休館日 月曜日 (祝日の場合は翌平日)

アクセス JR京浜東北線 王子駅下車 (中央口) 徒歩3分

東京メトロ南北線 王子駅下車 (1番出口) 徒歩3分

都電荒川線 (東京さくらトラム) 王子駅前下車 徒歩3分

*駐車場はありません

ウェブサイト <https://www.npb.go.jp/museum/>



お札と切手の博物館 検索

春の凹版印刷体験イベント 4/24 ~ 5/6

お札に使われている印刷技術『凹版印刷』が体験できます。

※期間等を変更する場合があります。
詳しくはホームページをご確認ください。



お札と切手の博物館

Banknote and Postage Stamp Museum

ご入場までの流れ

会場へのご入場は、混雑緩和の為、ご住所お名前のご記入が不要となりました。

会場へはダイレクトメールの封筒をお持ちください。

ご住所の変更等ありましたら、赤字で封筒にご記入の上お持ちください。

尚、封筒は全員プレゼントの抽選対象となります。

目次

大会委員長挨拶	3
展示品・企画品	10
特別販売品	11
会場案内	14
スケジュール	15
ブース案内図	16
参加社名	17
太閤秀吉の実像と金銀	岩橋 勝 … 21
「お札の歴史は、ニセ札との戦いの歴史でもあった」	
大規模な偽札発生の都度、進歩・更新された紙幣の偽造防止対策	… 植村 峻 … 33

コンヴェンション会場と交通機関

TICC

会場

ロイヤルパークホテル ROYAL PARK HOTEL

3F ロイヤルホール Royal Hall 3rd Floor
〒103-8520 東京都中央区日本橋蠣殻町2-1-1 TEL 03-3667-1111



今回も、東京の中心部日本橋・蠣殻町にあるロイヤルパークホテルにて開催されます。国際ホテルとして高いグレードを誇るロイヤルパークホテルの3階「ロイヤルホール」と「ホワイエ」にて、造幣局・国立印刷局をはじめ、海外の造幣局の展示や、国内・海外の参加業者の展示即売会が繰りひろげられます。

歴史的にもこの蠣殻町は、徳川幕府が享和元年(1801年)銀貨鑄造所を銀座2丁目から蠣殻町に移転させ、明治2年に造幣局ができるまでの68年間、銀貨の鑄造を行ったゆかりの地でもあります。

- 東京駅より2km(車で10分)。
- 地下鉄半蔵門線、東武伊勢崎線「水天宮前駅」に直結。
- 地下鉄日比谷線、都営浅草線「人形町駅」より徒歩5分。
- 東京シティー・エアターミナルに隣接。
- 車で成田空港へ60分、羽田空港へ30分。

The 37th TOKYO INTERNATIONAL COIN CONVENTION

コイン・コンヴェンションとイベントの日程

ロイヤルパークホテル 3階
(ロイヤルホール)

5月1日(金)

9:50		開会式	Opening Ceremony
10:30		一般開場	Exhibit Area opens to Public
12:00 ~	クラウンルーム	チャリティーくじ	Crown room
14:00 ~ 15:30	クラウンルーム	講演(岩橋 勝先生)	Lecture (Dr.Iwahashi) Crown room
16:00 ~ 17:30	クラウンルーム	セミナー(日本貨幣協会)	Seminar Crown room
18:00		閉場	Exhibit Area closes

5月2日(土)

10:00		一般開場	Exhibit Area opens to Public
10:00 ~	クラウンルーム	日本赤十字社 世界のコイン配布(チャリティー)	Crown room
11:00 ~ 17:00		こどもスタンプラリー	
11:00 ~	クラウンルーム	チャリティーくじ	Crown room
14:00 ~ 15:30	クラウンルーム	講演(植村 峻氏) ※講師が怪我治療中の為、当日中止となる場合がございます。	Lecture (Mr.Uemura) Crown room
16:00 ~ 17:30	クラウンルーム	セミナー(外国コイン研究会)	Seminar Crown room
18:00		閉場	Exhibit Area closes

5月3日(日・祝)

10:00		一般開場	Exhibit Area opens to Public
10:00 ~	クラウンルーム	日本赤十字社 世界のコイン配布(チャリティー)	Crown room
10:00 ~ 16:00		こどもスタンプラリー	
11:00 ~	クラウンルーム	チャリティーくじ	Crown room
14:00 ~ 15:30	クラウンルーム	セミナー(日本近代銀貨研究会)	Seminar Crown room
17:00		閉場	Exhibit Area closes

実行委員スタッフ

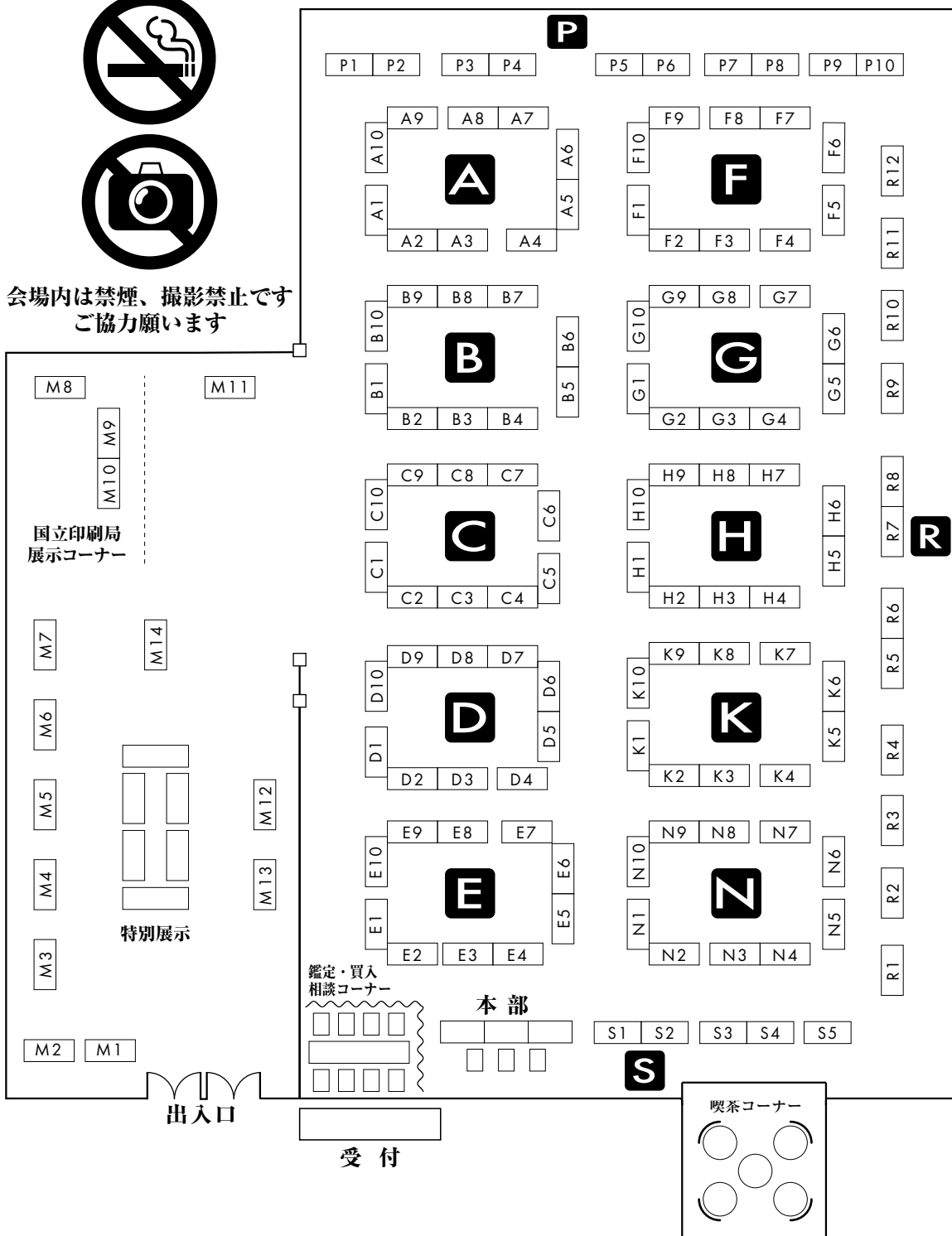
●大会委員長	竹内 祐司	Yuji Takeuchi	
●実行委員長	高馬 大三	Daizo Koma	
●実行委員 (順不同)	寺田 実	Minoru Terada	野崎 祐一 Yuichi Nozaki
	関口 寧	Yasushi Sekiguchi	岡田 啓示郎 Keijiro Okada
	竹内 潤	Jun Takeuchi	橋本 愛美 Manami Hashimoto
	屋代 拓巳	Hiroki Yashiro	

第 37 回東京国際コイン・コンヴェンション

出展業者のブース案内図 / EXHIBIT AREA INFORMATION



会場内は禁煙、撮影禁止です
ご協力願います



第37回東京国際コイン・コンヴェンション 参加社名 TICC

◎造幣局関係

独立行政法人 造幣局	Japan Mint	M 1・2
独立行政法人 国立印刷局	National Printing Bureau, Japan	M 8~10
英国王立造幣局	The Royal Mint	M13
フランス国立造幣局	Monnaie de Paris	M 4
中国金幣集团有限公司	China Gold Coin Group Co., Ltd.	M 5
王立スペイン造幣局	Royal Spanish Mint	M 3
シンガポール造幣局	The Singapore Mint	M12
王立オランダ造幣局	Royal Dutch Mint	M 6

◎海外参加社

シージーピー・ヌミスマティクス・パリ (フランス) CGB Numismatics Paris	F 5
チャンピオン・オークション (香港) Champion Auction	G 7
コインズ・アンド・アンシエント・アート (ドイツ) Coins and Ancient Art	R 1
メゾン・ガドリー・ヌミスマティック (モナコ) Maison Gadoury Numismatique	R 3
キューカー・オークション (ドイツ) Fritz Rudolf Kuenker GmbH & Co. KG	R11
ヘリテージ・オークションズ・ジャパン Heritage Auctions Japan	C 6
ナイトブリッジコインズ/セント・ジェームズ・オークションズ (英国) Knightsbridge Coins Ltd / St. James's Auctions	D 4
ニューセンチュリー・コインズアンドノート (香港) New Century Coins & Notes	N 6
エヌジーシー・ピーエムジー・エーエスジー (香港) NGC-PMG-ASG	M14
ピー・シー・ジー・エス (香港) PCGS	M11
シュールマン (オランダ) Schulman B.V.	R10
ミントコンパニエ (スウェーデン) Myntkompaniet	R10
シンコナ (スイス) Sincona AG	R 9
スピנק (香港) Spink	R 2
スタックスバウワーズ・アンド・ポンテリオ (香港) Stack's Bowers and Ponterio, Ltd.	K 7
ステーパーン・アルバム・レア・コインズ (米国) Stephen Album Rare Coins	R12
エムディーシー・モネ・ド・コレクション (モナコ) MDC Monnaies de Collection	F 4
トリゴメトリック・エス・ディー・エヌ・ピー・エー・ディー・アンド・トリゴメトリック・リミテッド (マレーシア) TRIGOMETRIC SDN. BHD. & TRIGOMETRIC LIMITED	S 5
ソブリン・レアリティーズ (英国) Sovereign Rarities Ltd	N 5
アンティクア・トレーディング (スイス) Antiqua Trading AG	N 7
ユーロセリー・コレクション (タイ) Eur-seree Collecting Co., Ltd.	K 4
ヌミスマティカ・アルス・クラシカ (英国) Numismatica Ars Classica NAC AG	R 4

◎国内参加社

■ 日本貨幣商協同組合加盟店

アカデミー商会	Academy Shokai, Co. Ltd.	B 7~10
アベノスタンプコイン社	Abeno Stamp Coin Co.	R 5・6
アローインターナショナル	Arrow International Co. Ltd.	P 1・2
アンティークリンク	Anty Link Inc.	R 7・8
ヴァンガードコイン	Vanguard Coin	G 5・6
薄井美術店	Usui Bijyutsu ten	P 3・4
駅前コイン	Ekimae Coin Co.	K 1~3
カードショップトレジャー	Card Shop Treasure	A 9・10
銀座コイン	Ginza Coins Co.	C 7~10
銀座ステラ	Ginza Stella Co. Ltd.	S 1・2
ケネディ・スタンプ・クラブ	Kennedy Stamp Club Inc.	G 8~10
コレクションハウス	Collection House	A 4~6
収集ワールド	Collection World	H 5・6
城南堂古美術店	Jhonando Kobijyutsu Ten	E 5~7
新岐阜商会	Shingifu Shokai, Co. Ltd.	B 5・6
新橋スタンプ商会	Shinbashi Stamp Co. Ltd.	G 1~4
杉本梁江堂	Sugimoto Ryokodo	A 1~3
世界コイン	World Coins	N 8~10
セキグチ	Sekiguchi	H 7~10
世田谷スタンプコイン	Setagaya Stamp Coin	S 3・4
泰星コイン	Taisei Coins Corp.	D 5~10
大日スタンプ・コイン	Dainichi Stamp Coin	F 7・8
ダルマ	Daruma International Galleries	H 1~4
寺島コイン	Terashima Coin	K 5・6
野崎コイン	Nozaki Coin	K 8~10
八王子ムササビコイン	Hachioji Musasabi Coin	N 1・2
ファミリースタンプ	Family Stamp	E 3・4
フクオ	Fukuo	A 7・8
フクオスタンプ社	Fukuo Stamp Co.	P 5・6
松浦古銭堂	Orient Coin Center	P 9・10
ミントミントオークション	Mint Mint Auction	B 1~4
モリシタ 時遊屋	Morishita Jiyuya	E 8~10
大和文庫	Yamato Bunko	N 3・4
ユキオスタンプ	Yukio Stamp Co. Ltd.	D 1~3
ロイヤルコイン	Royal Coins Co.	E 1・2
ワールドコインズ・ジャパン	World Coins Japan	C 1~5
ワタナベコイン	Watanabe Coin	F 1~3
日本貨幣商協同組合	Japan Numismatic Dealers Association	本部

■ その他国内参加社

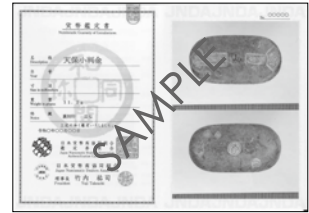
ネットジャパン	Net Japan Co. Ltd.	P 7・8
和楽屋	Warakuya	F 9・10
公博 GBICA	GBICA	F 6
書信館出版	Shoshinkan Publication Co. Ltd.	M 7

大切なコレクションに鑑定書をつけませんか？

鑑定を依頼する

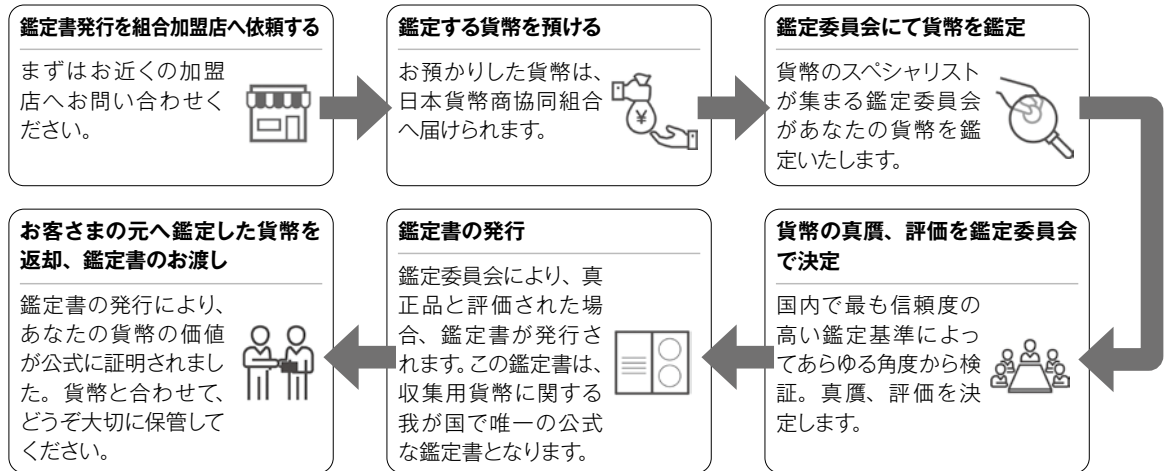
日本貨幣商協同組合には、皆様のお手持ちの貨幣に鑑定書を発行する鑑定委員会がございます。

この鑑定書は、収集用貨幣に関する我が国で唯一の公式な鑑定書です。貨幣の正しい評価やコレクション充実の為、また次世代に受け継ぐ為に大切なコレクションに鑑定書をお付けになる事をお薦めしております。鑑定書発行の受付は全国の組合加盟店でご相談下さい。



鑑定書見本
(日本貨幣商協同組合オリジナルケース入)

鑑定書が発行されるまでの流れ



※鑑定書発行にかかるお時間は、2週間～2ヶ月となります。その間、鑑定する貨幣はお預かりさせていただきます。

鑑定書を発行出来ない貨幣の一例

- ・日本で発行されていない貨幣（外国貨幣など）
- ・現在の法定通貨として通用している貨幣（現行貨幣）＜例：記念コイン、通常の流通貨幣、廃貨になっていない昔のお金など＞
- ・現状の状態が著しく劣化している貨幣や、加工してあるもの
- ・修正品など

鑑定書料金表

	鑑定品の価格（時価）	鑑定料（税込） 	デジタル鑑定書付 鑑定料（税込）
1.	10万円未満 (10万円を含まず、以下は同じ)	11,000円	16,500円
2.	10万円以上 50万円未満	16,500円	22,000円
3.	50万円以上 100万円未満	22,000円	27,500円
4.	100万円以上 200万円未満	33,000円	38,500円
5.	200万円以上 500万円未満	55,000円	60,500円
6.	500万円以上 1,000万円未満	110,000円	115,500円
7.	1,000万円以上	165,000円	170,500円

※なお、にせ物、鑑定不能品については申し込み手数料として1品につき金8,800円（税込）を申し受けます。

▶鑑定のご相談、お申込みは、全国の組合加盟店を通してお願いします。

日本初、ブロックチェーン技術による貨幣の「デジタル鑑定書 (NFT)」

Japan's First "Digital Authentication (NFT Certification)"

日本では 2021 年度の流行語大賞にノミネートされた「NFT」という単語ですが、海外では大賞を受賞いたしました。世界的に非常に注目度が高い技術です。

デジタルでありながら「コピーがつかれない」、言いかえれば「偽造ができない」データ、それが NFT (非代替性トークン) です。

この技術を用いて、日本貨幣商協同組合は 2022 年 4 月からデジタル鑑定書の発行に踏み切りました。

デジタル鑑定書は、一見すると普通のプラスチックのカードにしか見えません。ですがスマホやタブレットにかざすことで、証明すべき商品の画像、鑑定書データなどを見ることができます。

デジタル鑑定書は、商品の偽造防止、真贋判定に大きく役立ちます。環境問題も併せて、デジタル化の流れは急速に進んでいます。

日本貨幣商協同組合は、業界に対し責任ある立場から、鑑定書のデジタル化への先鞭をつけることにいたしました。

日本貨幣商協同組合は、持続可能な開発目標 (SDGs) の向上に向けた取組みの一環として、これを大きな一歩と考えております。

The word "NFT" was nominated for the 2021 buzzword award in Japan, but it won the grand prize overseas. It is a technology that has received a great deal of attention worldwide. NFT (Non-Fungible Token) is digital data that "cannot be copied"; in other words, it "cannot be forged".

Using this technology, the Japan Numismatic Dealers Association began issuing digital authentication in April 2022. At first glance, a digital certificate looks like an ordinary plastic card. However, by holding it over your smartphone or tablet, you can see the image of the product to be certified, the certificate data, etc.

The digital certificate is beneficial for preventing counterfeiting of products and determining authenticity. Along with environmental issues, the trend of digitalization is advancing rapidly.

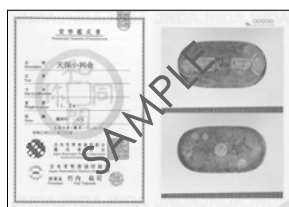
The Japan Numismatic Dealers Association has decided to take the initiative in digitizing the certificate from a responsible position for the industry. The association considers the initiative a significant step in its efforts to attain the Sustainable Development Goals (SDGs).

■ デジタル鑑定書 (NFT)

鑑定委員会による我が国唯一の公式な鑑定書を発行

■ IC タグ付きブロックチェーン「デジタル鑑定書」

お手元のカードにスマホをかざすだけで、商品の鑑定書ページが表示され、いつでも証明内容を確認することができます。



貨幣画像・鑑定書画像
鑑定内容を
IC カードに集約



JNDA オリジナルカード
※画像はイメージです。

カードに
スマホを
かざすだけ!



5月1日(金)

「太閤秀吉の実像と金銀」

14:00~15:30

松山大学名誉教授 岩橋 勝(いわはし まさる)

【略歴】

1941年生まれ。1967年大阪大学大学院経済学研究科中退、1983年経済学博士(大阪大学)。大阪大学経済学部助手を経て、1969年松山商科大学(現、松山大学)赴任、教授を経て2012年退職。この間、社会経済史学会理事、貨幣史研究会代表などを歴任。2023年度日本学士院賞受賞。

【主要著作】

『近世日本物価史の研究』(大原新生社、1981年)、『日本のお金の歴史 江戸時代』(ゆまに書房、2015年)、『近世貨幣と経済発展』(名古屋大学出版会、2019年、第18回徳川賞)、編著に『貨幣の統合と多様性のダイナミズム』(晃洋書房、2021年)、共著に『関西経済とアジア』(関西大学出版部、2025年)など多数。



5月2日(土)

「お札の歴史は、ニセ札との戦いの歴史でもあった」

14:00~15:30

大規模な偽札発生の都度、進歩・更新された紙幣の偽造防止対策

① 5月2日の特別講演会は、講師の怪我治療中のため、当日中止となる場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどお願い申し上げます。

紙幣研究者 植村 峻(うえむら たかし)

【略歴】

1935年生まれ。1958年都立大学卒業、大蔵省印刷局勤務、1989年大蔵省印刷局滝野川工場長、1991年印刷局業務部長、1994年退職、1998年(財)印刷朝陽会専務理事、2007年(財)印刷朝陽会事務局長・調査研究部長などを歴任。

【主要著書】

『世界の銀行券』(印刷局朝陽会、1987年)、「日本紙幣の凹版彫刻者たち」(印刷朝陽会、2010年)、「お札のはなし」(印刷朝陽会、2015年)、「日本切手の凹版彫刻者たち」(日本郵趣協会、2015年)、「紙幣肖像の近現代史」(吉川弘文館、2015年)、「日本紙幣の肖像やデザインの謎」(日本貨幣商協同組合、2019年)、「贋札の世界史」(角川書店、2020年)など多数。



収集家団体の有志によるセミナー

ロイヤルパークホテル3階クラウンルーム TICC

5月1日(金)

「だいたいわかる安南銭」

16:00~17:30

日本貨幣協会

【内容】古銭収集をこれからされる方向けに、本人の収集経験からポイントをまとめて紹介します。

5月2日(土)

「インドコインほかの展示セミナー」

16:00~17:30

外国コイン研究会

【内容】今年の展示セミナーは①インドのコイン(植民地を含み、古代から現代まで)をメインテーマとし、サブテーマとして②消えゆく銀貨の時代(1960年代中心)および③ジョージ5世のコイン(英国・英連邦)をとりあげて解説します。

5月3日(日・祝)

「よろず相談会12」

14:00~15:30

日本近代銀貨研究会

【内容】近代銭なんでも相談&旧50銭銀貨_最新分類表他の配布
「講演:近代銀貨トーンバラエティーの魅力」

日本貨幣商協同組合 HP にて公開中!

世界の紙幣とコインの最新ニュース

編集: 紙幣関係 植村峻

日本赤十字社の世界のコインの配布は、
2日(土)・3日(日・祝)の2日間とさせていただきます。
1日(金)は、コインの配布は行いません。

配布のスケジュール

2日(土)・3日(日・祝) 10:00~クラウンルーム

※コインの配布は、無くなり次第終了となります。

太閤秀吉の実像と金銀

(松山大学名誉教授) 岩橋 勝

はじめに

今年のNHK大河ドラマは「豊臣兄弟」。昨年の江戸時代後期の出版文化を掘り下げた蔦屋重三郎「べらぼう」よりも視聴率は高いようです。ただ「べらぼう」もこの方面に関心ある視聴者からはけっこう高い評価が得られたようです。が、その背景にある当時の幕府内政治状況や江戸町人の生活状況がかならずしも広く知られていません。ために、視聴率は期待されたほど伸びませんでした。それに比べると、近世社会を切り開いた「3英傑」(信長・秀吉・家康)を扱うドラマは世代を超えて人気があり、NHKは適度な間隔で放映しています。なかでも豊臣秀吉(写真1)を主役・準主役にしたものがいちばん多い。

最初の放映は、大河ドラマが始まって3年目の1965(昭和40)年「太閤記」(秀吉役 緒形拳 写真2)。信長役を当時代人気先行していた高橋幸治が演じて視聴率を上げ(本能寺編の放映を2か月も延期変更させた!)、対照的に「サル顔」ゆえに抜擢されたといわれる新国劇所属で、かけだしの緒形拳が熱演したこともあり、かれの出世作となります。その32年後の1996(平成8)年に主役となる「秀吉」(竹中直人)があり、かなり間隔は空いていますが、じつはその中間に秀吉が準主役級で登場する「おんな太閤記」(1981年 西田敏行)が入ってきます。今年の大河ドラマも秀吉は準主役での登場ですが、さらにこの時代を扱ったドラマで秀吉登場ということになると、3年前の「どうする家康」(ムロツヨシ)に至るまでに、以上4本のほか「天と地と」「功名が辻」「麒麟がくる」など、なんと17本も制作されているのです。つまり、3年に1度は日曜日夜のゴールデンタイム大河に秀吉が出てくるわけです。秀吉の個性も含めてこの時代を扱ったドラマの人気はいったいどこにあるのでしょうか。

秀吉時代を貨幣史の流れで見ると、江戸時代に移行する大きな転換点にあたります。それ以前は古代以降、米や布などが物品貨幣として併用されることはあっても、銭貨が主要な通貨でした。ところが16世紀の半ばあたりから全国的に金山・銀山が開発されるようになります。戦国時代には合戦に伴う兵糧調達が不可避で、つねに領内から戦地に運べるわけではありません。いちばん手取り早い調達法は戦地近くで購入することです。銭貨に比べてより少ない重量で購入できる金銀を、領内から多く採掘できた戦国大名ははるかに有利だったでしょう。ために金銀山を巡る攻防合戦がくりひろげられ、より強力な大名のもとには敵対関係がない証明として大量の金銀が献上されたりします。このように秀吉の時代には、これまでの銭貨に加えて金・銀が貨幣的に使われるようになる、江戸時代三貨制への転換点の萌芽が垣間見られることとなります。

今回は以上2つの問題を掘り下げて解説することとしましょう。

1 太閤秀吉へのまなざし

戦国末期の「3英傑」のうち、信長と家康についての評価は比較的定まっています。信長は応仁の乱以降、乱れに乱れていた中世社会を「天下布武」のスローガンのもと、統一の方向へ導いた革新者(写真3)。また家康は、信長の時代から覇者となる機会はあるながらもリスクを避けて長期間耐えに耐え、200年を超える平和な時代を切り開く統治者のイメージです。もちろん時代によってこの二人への評価は枝葉の面では変わっていますが、骨格面



写真1 関白秀吉画像



写真2 緒形秀吉と高橋信長



写真3-1 織田信長画像



写真3-2 天下布武印

では以上の通りでしょう。その間に生きた秀吉は信長の遺産を継承し、長期政権体制構築面では未完のまま亡くなりましたので、歴史的な評価ははるかに多様性があります。

秀吉に対するまなごしの第一は、庶民出身なのに出世を重ね、戦国末期の覇者となったことでしょう。足軽出身とも農民出身とも言われますが、織田家家臣として一定の功績をあげる以前については史料的に確認できるものは一つもありません。ただ信長・家康とも一定地域の領主の家柄であったのに対し、秀吉が二人とは異なっているのは低階層出身であったことだけは誤りないようです。このため、さまざまな幸運にも恵まれながら独特の才能で運命を切り開いていった、成功者としての評価に異論を唱える人はいないでしょう。とりわけ人気が高まったのは、江戸時代後半にかかる田沼時代以降でした。庶民の生活水準が少しずつ高まっていく一方で、武士の経済力は相対的に低下していきます。寛政改革のような引き締め政策がたびたび出され、体制変革に連なるような出版物や娯楽は規制対象になります。太閤秀吉人気は大坂を中心に近世初期から根強くありましたが、幕府は全国的な広がりには警戒を強めながらも、それらを厳しく取り締まってきました。

秀吉は存命中から自身の功績を側近に記録させ、それに若干の脚色を加えて権力の安定・拡大に利用していたようです（大村由己「天正記」、太田牛一「太閤様軍記の内」）。かつて秀吉の甥秀次の侍医を務め、のち加賀藩の儒学者となった小瀬甫庵が1625（寛永2）年にこれらの記録も参照して著した『太閤記』（全22巻）は物語風で読みやすく、その後各方面で書き・語り継がれる「太閤記物」の底本となります。当初は講談として語り継がれますが、太閤記物が庶民により浸透したのは、元禄文化期に活躍した近松門左衛門脚色の歌舞伎・浄瑠璃によるものでしょう。「絵本太閤記」（図1）のような読本も19世紀に入ると多く出版され、庶民の体制への不満に対するガス抜きの効果もあって、幕府は一定度の上演や出版等を黙認するようになりました。このようにして、徳川体制確立・安定にとって敵対する太閤秀吉は、江戸時代後半から庶民の間にその知名度が広く浸透していったのです。



図1 絵本太閤記に描かれた草履取り図

ついで秀吉に注がれるまなごしの第二は、信長・家康にはできなかった国外進出を実行した、覇者としてのスケールの大きさです。これは明治以降の戦前期にそうした評価の普及がみられたもので、あきらかに政府筋による学校教育等を通じたプロパガンダの影響によるものです。文禄・慶長の役とも言われる二度にわたる朝鮮出兵は、近代日本が現に実行したアジア進出を正当化する論理としても利用されたことでしょう。（図2）最初の出兵は1592（文禄元）年から翌年にかけて行われ、秀吉配下の小西行長・加藤清正ら西国大名を糾合しておよそ15万人余が朝鮮半島にわたり、首都の漢城（ソウル）に至ります。明国は李氏朝鮮に援軍を差し向けて両陣営硬直状態となり、交渉の結果翌年いったん講和が成立し、一部の秀吉軍は南部に城砦を築いて駐留。1597（慶長2）年再度14万人の兵で侵攻を開始しますが、秀吉の死去により翌年講和、撤退します。



図2 秀吉による三国支配構想

このような秀吉による大陸進出に対する評価はさすがに戦後日本では否定され、恥ずべき史実として認識されるようになっていきます。

ただし、近代日本を取り巻く東アジア情勢と戦国末期のそれとは大きく異なり、戦後の国内歴史学界での評価はかならずしも定まってはいません。近代における大陸侵攻は世界的に帝国主義がまだ支配的であったとはいえ、あきらかに「侵略」であり、恥ずべき行為でした。しかし戦国末期の秀吉の論理は、それまで国内で取り組んできた戦闘行動の延長であって、小田原征伐や島津征伐と同じレベルの行動だったこととなります。秀吉による領土拡大目的というシンプルな要因のほか、あらたな支配地獲得ののちにさらなる支配地拡大が戦国期には不可避でした。つまり、軍事行動で勝利を得た場合、味方の功労者にはつねに恩賞が必要のため、全国統一後の恩賞原資として海外進出が不可避であったという説が有力となっています。

ところでさきに紹介した庶民出身から天下人への成功者という秀吉への第一のまなざしは、戦後かたちを変えて評価されることとなりました。そこで確認できる第三のまなざしは、戦国社会の常識にとらわれない柔軟な発想にもとづく、秀吉の「人たらし」の側面です。「人たらし」とは、表面をかざらず気配りが

できて、多くの人からいつの間にか好かれてしまう性格を言います。戦後の経済成長過程で、経済の先行きを見通す力やあたらしい生産技術等とともに、成功者の条件として大きな組織を動かせる人的能力に注目されるようになります。秀吉に対してはのちに述べる「金配り」も重視されますが、それ以上に重視されたのが本音に訴えかけて周りの人々をひきつけ、結果として大きな組織を動かすことができる能力でした。(表)

種類	名前
一門衆	羽柴秀長(実弟)・羽柴秀勝・三好吉房(姉婿)・浅野長政(妻一族)・杉原定利(妻一族)・杉原家次(妻一族)・木下家定(妻一族)
尾張衆	加藤清正(秀吉一族)・福島正則(秀吉一族?)・山内一豊・蜂須賀正勝(川並衆リーダー格・家老)・青木一矩・平野長泰・加藤嘉明・堀尾吉晴・宮田光次(馬廻)
美濃衆	竹中重治(斎藤氏旧臣)・坪内利定(松倉城主)・稲葉貞祐・加藤光泰・小野木重次・生駒親正・石川光政・日根野弘就(斎藤氏旧臣)・谷衛好・仙石秀久・一柳直末・伊藤秀盛・尾藤知直
近江衆	木村隼人正・片桐且元(浅井氏旧臣)・寺沢広政・石田三成・中村一氏・増田長盛・宮部繼潤(浅井氏旧臣)・速見守久・脇坂安治・長浜衆(伊藤牛介・谷兵介・石川小四郎・藤懸三藏・田中小十郎など)
他国衆	中川清秀(摂津茨木城主・舎弟)・小西行長(堺衆)・宇喜多秀家(備前岡山城主)・黒田孝高(播磨姫路城主)

表 長浜時代の秀吉家臣団

秀吉が「人たらし」たりえたのは、かれが武家出身でなかったことが影響しています。当時の武家が重視したのは世襲の家柄を守りつつ、武運をかさねて出世することでした。とりわけ敵将の首を討ちとるといような個人的な武功が評価され、本人のみならず一族への主君の信頼を厚くしました。ところが秀吉はそうした枠にとらわれないで、城を攻めたり守ったりする際に重要な土木技術面の戦略や、戦闘に不可欠な兵糧や武器の確保のための配慮、つまりデスクワークへの重視が目立ちます。(図3)他の武将の軍事作戦でもこれらは不可欠ですが、配下の戦士たちはどうしても個人的な武運獲得に励みがち。秀吉は多くの武将を動かすような地位については、個人プレーよりも「後方作戦」に従事し、結果を残す戦士をより評価、厚遇しています(本郷和人『豊臣の兄弟』27-33頁)。現代企業の発展に際してもそうした組織的な判断・実行力は変わることなく求められ、高度成長の時代にビジネスリーダーの典型として秀吉が見直されるようになったことは十分に理解できるでしょう。



図3 絵本に描かれた墨俣築城

2 木下藤吉郎 — 太閤秀吉の実像

秀吉の存在が初めて史料のうえで確認できるのは1565(永禄8)年。尾張国との境界近くにある美濃松倉城の坪内利定に100石の所領を信長に代わって秀吉(当時は木下藤吉郎)名義で安堵した書状です。信長に仕官して11年目で、桶狭間の戦いの5年後になります。それ以前の生きざまについては出生や結婚年など、その後の記録から逆算して判明するものもあります。が、ドラマや小説等で紹介される生い立ちの事情やその他のエピソードの多くはさきに述べた「太閤記物」をもとにしているため、どこまでが実像なのか、この時期専攻の歴史学者の間でも個人的な「想定」レベルの諸説が飛び交って、定説はいまいません。

青年期までのエピソードとしていろいろなものが知られていますが、おなじ郷土出身として子供の頃に私が目にした読物やまわりから見聞きしたものはつぎの通りです。幼名は日吉丸と言われ、子供のころから家を出て住み込み奉公や針売りなどの行商をした。信長に仕官する契機は、放浪中に矢作川にかかる橋のたもとで野宿し

ていたさい、蜂須賀小六（秀吉配下を経てのちの阿波藩主）を首領とする尾張の野盗団が通りかかって知り合いとなり、この一団が丸ごと信長の家来になった。信長により近づけたのは、はじめ草履取りとなり、懐で温めておいた草履を差し出して好感を得たこと（写真4）、武士として認められたのは岐阜稲葉山城攻略にさいして必要な、長良川畔の要害の地・墨俣に一夜にして城（写真5）を築いたこと（1566年）。たった一夜で・・・というのはあきらかに誇張があるでしょう。しかし敵方の包囲網もあるなか、家臣でだれもできなかつた難関工事を短期間で仕上げ、信長の信頼を一気に引き寄せた秀吉が、その後急速に家臣団の中核に上り詰めたという話はわかりやすいものでした。

墨俣一夜城の伝聞は、秀吉の活動が先述のようにすでに断片的に記録され始めた時期になりますが、史料的裏付けはなく事実とは言えないようです。信長家臣であり、のち秀吉にも仕えた太田牛一『信長公記』（江戸初期成立）によれば、墨俣城はすでに5年前に美濃攻め前線基地として存在しており、秀吉がかかわったとすればあらためての攻撃にそなえた城の改修程度であったと思われます。この頃以前の秀吉の生きざまはまったく記録がなく、多くの「太閤記物」の記述からありえたとであろう人物像を、後世おおくの作家が作っていくこととなります。それらのうちから実像らしきものを探ってみましょう。



写真4 絵本太閤記（寛政10年刊）



写真5 現在の墨俣城



写真6 秀吉誕生地

まず出生年に2説あり、天文6（1537）年説と同5年説。多数説は前者ですが、後者の干支（10干12支）は「丙申」で、若年期に「サル」と呼ばれていた説に引きずられたのではと考えられます。また誕生日は元旦説と2月6日説。前者は誕生日の縁起かつぎ上創作されたという説が有力で、後者が多数説です。また少年期の「日吉丸」という通称は、誕生元旦説に関連し、生母なか（仲）が身体に太陽が入って受胎する夢をみて、日吉山王権現の申し子として秀吉を産んだと吹聴するためにひろがったようです。（写真6）

つぎに信長に仕官するまでの動向です。この時期のことを詳しく紹介した土屋知貞著『太閤素性記』（1676年以前成立）によれば、7歳で父弥右衛門と死別した後、寺の小僧に出され、いったん家にもどったあと1551（天文20）年放浪の旅に出た。駿河今川氏家臣の松下家に仕え、18歳でまた尾張にもどり、知人の紹介で草履取りとして信長のもとに。のち25歳に浅野長勝の養女・寧と結婚。このころより「木下」姓を名乗りますが、それは寧の母親が木下氏だったことによります。つまり、同書によるかぎり秀吉は姓もない庶民出身だったこととなります。いずれも史料的裏付けはありません。

秀吉が信長家臣として活躍する具体的な様子は、信長が美濃を制圧した後の1568年に上洛し、京都治政のため明智光秀や丹羽長秀ら4人を京都奉行に任じた際の一人に加わっていた以降のことです。その後、1570年朝倉攻めの際の「越前金ヶ崎城の撤退」でしんがりを務め、より信頼を高めます。この後に北近江で浅井氏との戦が姉川等を舞台に4年にわたりますが、その攻略のための重要な横山城を任されて、秀吉は初めて城主となります。浅井氏滅亡後は山城の横山城から琵琶湖畔の長浜に築城して移り、その遺領支配を任せられますが、浅井氏家臣団の大半も繰り入れることとなります。その際、武威のみで従属させたように見えますが、実際には一向宗徒や浅井氏と深い結びつきのあった在地勢力との協調に工夫を凝らし、しだいに有力な直属の家臣団としていったと考えられます。秀吉の「人たらし」の素質は、この浅井氏遺領やその家臣団引き継ぎの際に存分に発揮されたものと思われます。（写真7）



写真7 長浜城跡

その後、秀吉にとって天下取りへの契機となったのが「中国大返し」です。1582年6月2日未明に本能寺の変勃発。信長死去の報が翌日

深夜には毛利氏と対峙していた秀吉に届き、その10日後には大軍を畿内に戻し、山崎の戦いを開始しているのです。その間、毛利氏と急遽和議を結び、秀吉拠点の姫路で新たな戦いのための軍勢を正味2日足らずで整え、明石でも大坂湾制海権に影響する淡路島（秀吉配下にあった洲本城を、本能寺の変後に海賊菅氏が奪取）情勢を確認するため丸1日余滞在を余儀なくされています。したがって、総距離230kmの実質移動日は正味7日間ほど



図4 中国大返し行程

であったこととなります。大半が徒歩での行軍で、一日平均30km余りもの移動を強行させたことは、天下取りへの秀吉の意気込みが十分にうかがわれます。光秀もまさかこのような速さで秀吉軍が戻ってくるとは、たまげたことでしょう。

3 太閤秀吉誕生の基盤

太閤とは平安時代以降、摂政や関白職にあったものが退職後も後継者をとおして政務に影響をおよぼせる職のことです。秀吉が太閤と称されるようになるのは、1591年に嫡男鶴松が亡くなり、関白職を甥で養嗣子の秀次に譲って以降のことです。関白にはその6年前に任じられていました。賤ヶ岳の戦いにより織田家筆頭家老・柴田勝家を討ち、信長の遺業の継承者としての地位をより強化するため、朝廷・公家等に働きかけて実現したものです。当時、永年の敵対勢力であった毛利氏は服属していたものの、九州の島津氏と関東の北条氏はまだ降伏しておらず、なによりも信長存命時につかず離れずの関係にあった徳川氏（写真8）を秀吉陣営に引き入れる必要がありました。その際、古代以来、武威以外で無視されることのない権威である官位が有効でした。出自にこだわっていた秀吉にとって、征夷大將軍や太政大臣等の称号が必要だったわけです。



写真8 徳川家康画像

武家として天下人となった秀吉ならば、信長も目指したように足利氏による室町幕府を継承して征夷大將軍になっていても不思議ではありません。なぜ関白だったのでしょうか。この点については戦前期より多くの歴史家が検討を加えていて、今日ではおおむねつぎのようになっています。まず秀吉が征夷大將軍就任を目指していたというのは俗説であり、当時の記録にまったく出ていない。將軍を目指して秀吉が足利義昭に養子縁組をもとめたという説も広まっているが、これも裏付け史料がない。むしろ当時の正親町天皇から將軍任官を打診されたものの辞退したと解釈される史料が残されています。

一方、関白職については「関白の方が將軍職よりも高位である」と秀吉がとらえていたという説があります。当時、次期関白職を巡って二条家と近衛家が争っていて、その調停を求められた秀吉はみずから自分が成ると言い出し、「天下を掌握している」秀吉の求めを禁裏側も認めざるを得なくなったというものです。ただし、関白にはいわゆる五摂家しか就任できないため、秀吉は近衛家の猶子（家督や財産相続をともなわない養子）となる手続きをとっています。その際に秀吉は近衛家に1000石、他の4摂家に500石ずつの家領を用意したという近衛家の記録があり、この説の真実性は高いようです。（堀・井上編 236-9頁）

秀吉が名実ともに天下人として公認されたのは、1588年4月に実施された聚楽第行幸です。（図5）平安京大内裏跡地に建設さ

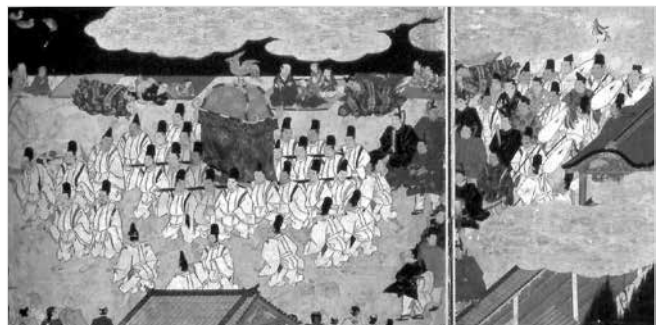


図5 聚楽第行幸鳳凰園

れた秀吉の政庁である聚楽第が前年に完成し、後陽成天皇をここに招く大規模な式典を通して、執政者である秀吉の権威を公家や武家の実力者たちに認めさせる機会となったわけです。ここに至るまでの秀吉の能力は前述の「人たらし」面もあったでしょうが、あらゆる方面への情報収集力を張りめぐらしたり、時には秀次のような近親者一族さえも抹殺したりする冷淡な決断力も必要だったでしょう。

秀吉による信長への忠誠心への疑義はこれまでほとんど出されていませんが、明智光秀のように機会があれば主君への謀反心がゼロであったとも言えない状況証拠はあります。それは本能寺の変の知らせがわずか2日足らずで、より正確に200km以上離れていた秀吉のもとに届いていることです。伝達者がすぐに京都を出発しても昼夜にわたり駆け続けなければならない距離であることと、その伝達内容が謀略だと不審に思われたい信頼できる人物でなければ、秀吉は早急には「大返し」決断はしていないでしょう。何か変があればただちに入手できる近い情報収集要員を、つねに信長近辺につけていたことがわかります。もちろん、それは忠義のあかしとも解釈できますが、そこまで忠義であるならば信長亡きあと、織田家後継者である織田信雄（写真9）に従うべきだったでしょう。



写真9 織田信雄画像

戦国期に武家が勢力を拡大して頂点に立つためには、以上のように大規模な兵力を組織的に動かすのみならず、服属させた敵方将兵を効率的に味方軍団に繰り入れてゆくことが求められます。その際、それまでの支配地を安堵したり、他の取奪地の一部を与えたりしながら、自身の領国を拡大してゆきます。問題は味方軍団内部でも、功績を上げた将兵に対して相応の恩賞用の土地がつねに必要なことでした。相応に評価されなかった際の部下の不満が、あらたな下剋上を招くということが戦国社会の宿命でした。

鎌倉時代以降、武士の生活基盤は領主から与えられた土地であり、そこで生産に励む農民たちを保護かつ支配しながら一定の年貢を取り、戦の際はかれらを徴兵できました。武家の勢力拡大とは、支配地が広がることによって年貢の収量と兵員数が増えるということです。ところが恩賞として与えるべき土地に限界が見えはじめたころ、土地に代わる価値あるものが利用できるようになりました。それが16世紀後半、全国的な採掘ブームによって大量に出回るようになった金銀です。

金銀は贈与や兵糧調達的手段として、それまで使用された銭貨と比べてかさばらず、戦国大名の間で急速に広まりました。平安末期より大陸から宋銭が流入するようになり、室町期には明銭も加わります。長期にわたる使用で形状が摩耗し、銭貨需要のたかまりによる供給不足という事情も加わって、模造銭や私鑄銭も大量に出回るようになります。こうした推移は、たとえば武家の旗印として信長が永楽銭、真田氏が六文銭（写真10）であったように、銭貨が貨幣の中心であった状況から、秀吉の時代になると贈答・賞賜での使用を中心に金銀の事例が増えてきます。1582年備中高松城水攻めの際、要した足守川堰止め費用が銭63万貫文余、米6万石余（堀・井上編 125-6頁）と言われ、まだ金銀は用いられていません。1587年聚楽第行幸後に京都で徴収した銀・銭貨5,530両（柴 97頁）を翌年、後陽成天皇に進上した記録があります。この際の内訳は判明しませんが、すでに銀が登場し、当時洛中で流通していた貨幣として銭貨とともにそのまま計上されたものと思われます。武家同士のやり取りの記録として、1585年に毛利氏が太田城へ服属後はじめ



写真10-1 信長旗印



写真10-2 真田氏六文銭



写真10-3 仙石氏の定款

て訪問した際に小早川、吉川両氏とあわせて1,800枚の銀を献上したほか、3年後の聚楽第行幸のための上洛の際はあらためて同3家で3,700枚の銀を献上しています。当時、石見銀山の経営は秀吉へ運上銀を納入することでそのまま存続しており、毛利氏にとってまだ大きな財源であったと思われる。

金がやりとりされるのは銀に少し遅れるようです。有名な1589年の「聚楽第の金配り」の際、秀吉は総額で金6,000枚、銀25,000枚を（「鹿苑日録」）配布したと言われ、うち家康には金200枚、銀2,000枚が渡されたとの記録（「家忠日記」）があります。最晩年の1598年に米以外で収納した財政収入高は大判4,399枚、銀93,365枚でしたので、やはり金の価値は一桁違っていたようです。たとえば1590年の小田原北条氏攻めの際、秀吉陣営は25万人以上の軍勢を動員し、3か月にわたって包囲を続けています。そのため20万石の米を糧食用に集積し、黄金1万枚を抛出して東海道筋から人夫・馬・糧秣を調達、輸送体制を確保しています。このように合戦の際の兵糧調達等の資金として、銀よりもはるかに少量で運搬にも便宜のある金の方が需要は高かったと思われる。

4 16世紀金銀の動向

現代ではわが国が金銀産出国として注目されることはほとんどありません。しかし16世紀後半から17世紀前半の間では金銀ともに採掘量がピークを示しています。とくに銀については当時の世界産出量の三分の一を占めるほどの注目される地域でした。それ以前の採掘技術はまったく初歩的なレベル。金について言えば、たまたま露頭で発見された金鉱石を当時の技術で掘り進むか、金鉱石が時間をかけて風化し、降雨で川に流れだした成分をより分けて採取する砂金が主流でした。現在、世界的に注目されている菱刈鉱山（鹿児島県）では、鉱石1トンあたり20gの金が採取でき、ふつう3g採取できれば十分採算が合うと言われていますので、戦国時代には全国各地で金鉱探しがさかんになったことでしょう。

当時の全国金山分布は図6のとおりで、東日本の陸奥、伊豆、甲斐、佐渡等が中心でした。中世には平泉を拠点とする奥州藤原氏が砂金を支配して勢力を誇示。戦国期には越後・佐渡を支配した上杉氏、甲斐を拠点とする武田氏、相模・伊豆を支配する北条氏がそれぞれ金山を保有して、覇権保持の基盤だったとも言えるでしょう。1598年上杉氏は秀吉政権が得た年間収納金、合計4,400枚のうち1,900枚もの運上金献納者として記録されており、また武田氏は次期天下人・家康による貨幣制度構築に大きな影響を与えています。

銀採掘が16世紀後半に急速に進んだのは、南蛮渡来の灰吹法と言われる銀精錬法が用いられるように

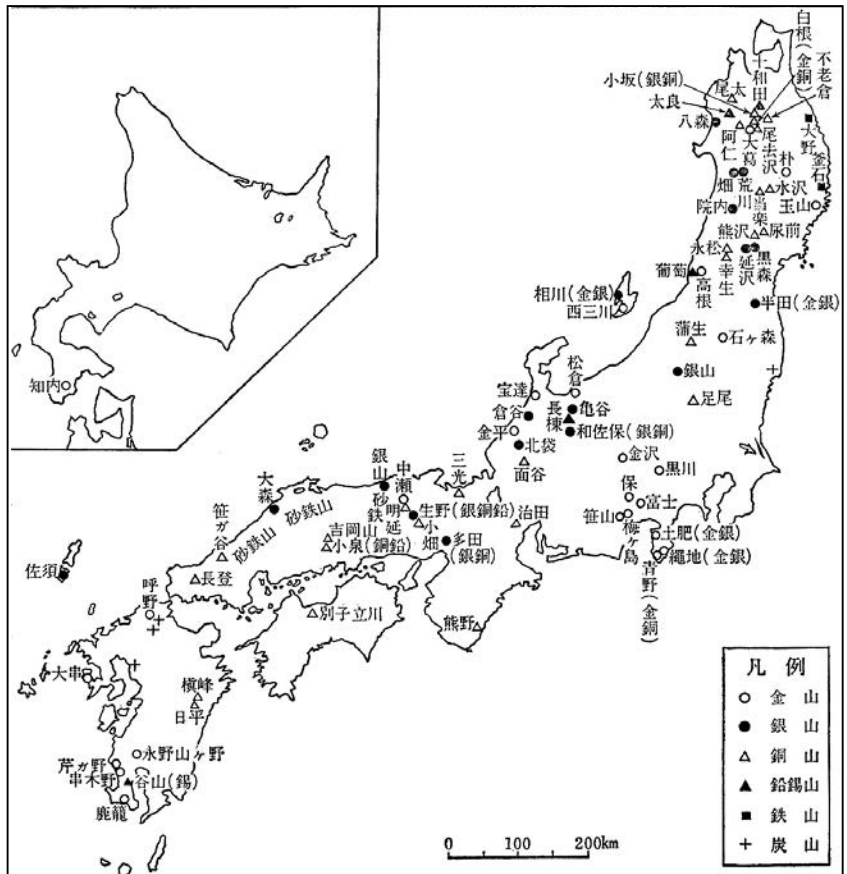


図6 16世紀金銀鉱山分布

なったことによるものです。灰吹法とは鉱石に鉛を加えて熱し、銅などの他の鉱物と金銀をとりわけて採取するため、骨灰を用いた吹き分け技術です。1533年の石見銀山発見以降に導入されますが、1542年には技術者が但馬の生野銀山にも移り、さらに他の銀山開発をすすめてゆきました。おなじ時期、スペインによるペルーやメキシコでの金銀採掘が急速に進み、ヨーロッパにもたらされたことは世界史でよく知られています（価格革命）。しかし、その精錬には鉛よりも人体により有害な水銀が使用（アマルガム法）され、鉱山従事者に大量の中毒死者が出たことはあまり知らされていません。

灰吹法による金銀山開発の結果、より鉱物資源にめぐまれた銀が大量に国内に出回るようになります。アジア、とりわけ中国では金よりも銀への嗜好が高かったこともあり、当時国内で急速に需要が高まっていた鉄砲・銃弾（鉛）や、火薬の原料となる硝石、陶器（茶道具）、絹織物など輸入品の対価にするため、戦国武将による銀山開発がさらに進みました。その結果、国内にどの程度金銀が出回ったかという点、多くは戦国大名の手元に偏在していたようです。しかも、信長の時代までは旧来の銭貨が一般取引の場で用いられ、金銀はさほど多くやり取りされたようには確認できません。

当時の社会ではまだ銭貨が一般的であったことは、撰銭令が断続的に各地で出されていることから判明します。地域ごとに様々な種類・形状の銭貨が流通しており、それらをどのような割合で取り混ぜ使用させるかが各地統治者の大きな課題であったのです。撰銭令は15世紀末から出されていることが確認できます。当初は市場で使用できる銭貨の種類を明示する程度のものでしたが、次第にそれまで使用を認めていなかった種類の銭貨を一定割合で増歩使用することや、従前流通の銭貨の間で生じていた価値の差異を公認するように変化しています。それほど国内の取引で必要とされる銭貨が不足していたことがわかります。そしてなによりも、当時の土地の価値は銭貨で表示される「貫文制」で示されていましたし、家臣たちへの恩賞としては銭貨が一般的にやりとりされていました。そうしたこともあり、このような当時の流通貨幣状況を反映して、先述のように信長の旗印が永楽銭であり、真田信繁（幸村）は六文銭を用いたりしています。金の貨幣的使用はなお後のことで、安土城築造にあたり、金箔瓦や金碧障壁画の部屋も作るというように、天下人として誇示する手段や恩賞等の使用に限定されていたようです。

太閤秀吉時代に作製された金貨として天正大判が有名です。それ以外のこの時期の金貨がどのように出回るようになったか、記録はなく、出土物等として現存するものを考証するほかありません。まず、天正大判以前に作製されたものと思われる蛭藻金や讓葉金、角形金（写真11）が近畿、中部地方や四国の一部で出土しています。いずれも重量は不定、品位はほぼ100%。それらは砂金や、鉱石から取り出した成分を延金として加工するさい横筋に槌目



写真11 天正大判と同時代の金貨〔縮小図〕



写真 12 太閤圓歩金と天正越座金 [拡大図]

を入れるというように、中身の品位を明示したもので、室町時代中期以降に作製されるようになったとされています。

また、「天正越座金」(写真 12) という小型金貨があり、天正年間に越後の上杉氏によるものとされています。上杉氏領では佐渡等で銀も大量に採掘され、その際おなじ鉱石に金もある程度含まれていますので、そこから抽出された成分から金貨が作製されていても不思議ではありません。ただし、上杉氏による金貨は小型のこの 1 種のみであり、しかも同時代に作製されたと思われる「太閤圓歩金」と形が類似しています。このため上杉氏による金貨とは断定しがたいとの異論もあります。明確なことは甲斐の武田氏が多種製作した小型金貨と比較すると、武田氏金貨は基石状の不定形ですが、これらの 2 種金貨はより円形となっています。しかも、「天正越座金」は「太閤圓歩金」と大きさがほぼおなじなのに重量は半分以下、つまりより薄く作製されています。現段階では上杉氏による製作と判断せざるを得ないでしょう。

秀吉以外の当時の武将による金貨製作としては前述の武田氏のものがあります。信玄時代の天文年間(1532-57)には金山開発がすでに行われており、徳川期に入っても甲州金(写真 13)として独自の小額金貨が多種(一両金のほか一分金、一朱金、さらにその 4 分の 1 の糸目金)作製されていることが有名です。武田氏領では当初から小額の額面もつくられていたことから、贈与・賞賜用だけでなく、取引用にも充てられていたことがわかります。その点、秀吉の金貨は用途がより限定されていたものと思われる。ただ太閤分銅金(写真 14)といわれる量目 100 目と定量で大型の金貨が後世の名古屋城にまとめて保蔵されており、取引用に作製される場合もあったようです。秀吉の金貨は天下人となってから作られていることから、室町時代より京都で営業していた金匠の後藤徳乗家がかかわった製作と思われる。

銀貨の製作は石見銀山での採掘が始まった天文年間(1532-55)以降になります。中国では銀錠(写真 15)の形でつくられることが普通ですが、わが国ではまったく異なる棒状でなまこ形の丁銀が多くつくら



写真 13 甲州金 [拡大図]

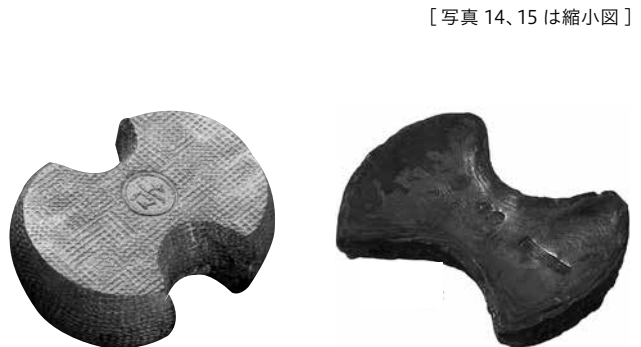


写真 14 分銅金

写真 15 宋代の銀錠

[写真 14、15 は縮小図]

れました。石州銀といわれるもので、銀山地元や泉州堺の銀商によっても作製されています。年代が確定できる最古のものとして、「元亀元（1570）年」の墨書入りの石州銀が毛利家で保蔵されています。1592年朝鮮出兵にあたり博多や毛利氏領内で作製させた御公用銀（写真16）があります。丁銀形態の石州銀は多く残存しており、表面におなじ刻印が多く打たれていることから、切り遣いを前提として作製されていたことがわかります。

秀吉晩年の記録では諸大名からの献納銀は上杉氏によるものが圧倒的に多く、当時は越後や佐渡での採掘が盛んであったことを示しています。ただし、先述の天正越座金は現物が残っていますが、上杉氏による銀貨についてはあきらかではありません。丁銀は切り遣いされたり、みかけを増量するため後世になって純分率を落とし、改鑄しなおされたりするが多かったことから、現物が残りにくいのでしょう。



[50% 縮小図]

写真 16 御公用銀

5 聚楽第金配りで用いられた金銀は

秀吉の生涯でもっとも華やかであったイベントとして、1587年の北野大茶湯および晩年の醍醐の花見（図7）とともにあげられるべきは、1588年4月に催した聚楽第行幸でしょう。北野の茶会は九州を平定後、統治拠点を大坂から京都に移すため、身分を問わず茶湯に興味のある人々を招いたものです。当代きっての茶人である千利休や津田宗久等が茶頭となり、秀吉自慢の黄金の茶室をメインに天満宮境内で催され、一日で千人の参加者があったといわれています。醍醐の花見は、参加者が北政所、淀殿ほか多数の側室など、ほとんどとりまきの女性および従者のみ1,300人、武士参加は警護役としてのみの参加という特異な宴で、茶会や歌会も催されました。秀吉はその4か月後に亡くなっており、すでに死期を自覚して催した、いわば華やかな生前葬であったとも解釈できます。



図7 醍醐の花見

これらにくらべると聚楽第行幸は秀吉の天下人としての地位を決定づけるため、不可欠なイベントでした。表面上は、平安京大内裏の跡地に建設したあらたな政庁である聚楽第が前年に完成し、それを披露するため、御所から後陽成天皇および摂関家をはじめとする公家たちを招くものでした。しかし、一番の目的は、天下人である秀吉を衆目のもとで周知させることにありました。上洛を求めてもなかなか応じず、永年にわたって手を焼いていた徳川家康が前年によく上洛しました。旧主の織田家はじめ他の有力武将たちと同様に豊臣政権の一員に入ったことを示す必要があります。その際、天皇を頂点とする古代以来の朝廷権威は、どんな武将も表面上敵対できません。この行幸を通して秀吉への忠誠を天皇の前で誓約させていることから、そのような背景が了解できます。

行幸は、御所から聚楽第までのわずか1.6kmほどを、まず秀吉が御所まで迎えにうかがい、その後公家集団、天皇、現任の公卿（左大臣、大納言などこのうちに秀長、家康など）の順で御所を発ち、さらに諸將を従えた関白秀吉が天皇を守護する形であとに続きます。記録に残された人数だけで500人以上、従者も加えれば2千人を超えており、天皇が聚楽第に到着したとき、秀吉はまだ御所を出発できていなかったほどの長い行列だったといわれています。沿道には「五畿七道より上り集った貴賤老少多数」（大村由己『聚楽行幸記』）の観衆が集まったとのこと。秀吉近臣の記録掛であった大村によるこの記事には、当然に誇張は含まれているでしょう。しかし、その「行幸記」をのちに天皇以下の主要参加者のみならず、不在であった有力者にも

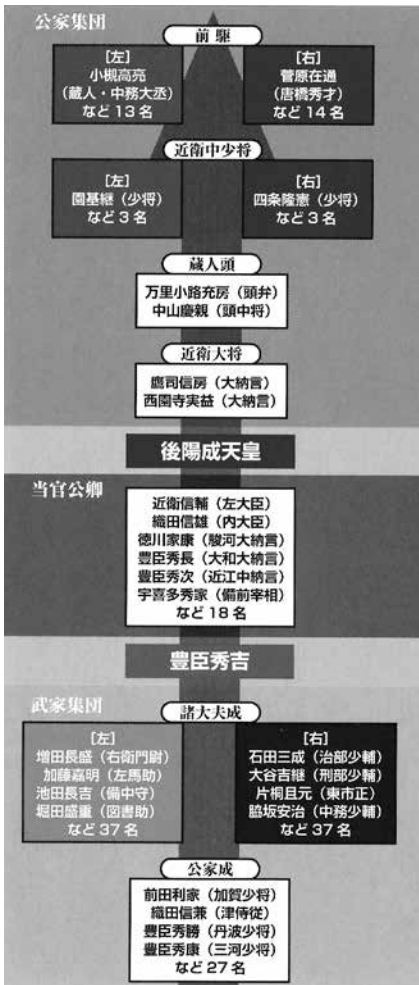


図8 聚楽第行幸行列順

配布したことがあきらかであり、この行列によって自身の権勢を広める効果は決定的でした。(図8)

なお、この行幸を利用して秀吉は諸大名に対し、天皇の前で自身への忠誠を誓約させる起請文を出させました。その際、徳川家康には「源」姓、織田信雄には「平」姓、長曾我部元親には「秦」姓、自身により近い前田、丹羽、池田氏等には「豊臣」姓で署名させたように、姓氏面からも古代以来の天皇権威利用を進めています。さらに、官位や公家の家格を武家にもひろげて授与し、従一位関白太政大臣である秀吉を頂点とする武家支配体制を完結します。この1年半前によく秀吉に服従することになった家康に対して秀長と同格の大納言、旧主信長の二男で継嗣者である信雄に対してはより上位の内大臣に叙すというように、最低限の敬意はあらわしています。武威のみでは掌握しきれない部分には、古代的な官位制を併せて利用することが有効であったわけです。

以上のような行幸目的を補強したのが、太閤の金配りといわれる、惜しみもない金銀の大量配布でした。1589(天正17)年5月に聚楽第を舞台として行われたものももっとも知られています。先に述べたように、総額で金6千枚、銀2万5千枚が配布されたことが記録されています。これは最晩年の秀吉政権が得た年間財政収納金銀額にほぼ匹敵するものです。聚楽第行幸の翌年のことになりますが、どのようなイベントに際しての配布なのか、意外にこまかな記録が残されていません。前年の行幸参加への報償としての意味が強く感じられます。いずれにしても、金銀現物の年間収納総額に匹敵するほどのものが一度に諸將に配布されたため、後世に強く記憶されたのでしょう。

同時代に国内で金銀がどの程度出回っていたか、若干の断片記録から探ってみましょう。奈良興福寺内の一寺院の記録「多聞院日記」によると、1591年に秀長が大和郡山城で病死した際、金5万6千枚と部屋いっぱい銀が残されたとあります。同日記は同時代の

貨幣流通事情や物価動向を比較的正しく伝えている史料として研究者の間でよく利用されています。有名な聚楽第での金配りでも黄金は6千枚にとどまっています。その前年の聚楽第行幸の際、後陽成天皇に洛中町人から献納された銀貨・銭貨が5,530両(黄金換算として、約550枚)でした。当時すでに金銀が贈与・取引等で相当に使われるようになっていて、とりわけ権力者のもとにこれらが集中しやすかった結果、秀長のような巨額な蓄財が可能になったことがわかります。

ところで、ここまで取り上げてきた「黄金」とはどのようなものであったのでしょうか。もっとも明確なものは天正大判(写真17)といわれるものです。秀吉が後藤徳乗家に命じて作らせたもので、1588(天正16)年にはじまり、1608(慶長13)年ころ(秀吉没後)まで3期にわたって作製されます。初鑄のものは表面に「天正十六」「天正十九」「拾両」などと墨書きされ、裏面にはなんら記載・標識がない(古鑄)。ついで文禄期以降にはやや長大となり「長大判」と呼ばれています。そして慶長13年以降、表面の標識や極印はほとんど変わらないでやや小型(後鑄)のものがあります。いずれも量目が44匁1分、品位は70%余で、ほぼ一定です。したがって、大量に金配りされた際の黄金はこれら天正大判のうちの古鑄大判と長大判であったこととなります。



[40%縮小図]

写真17 天正大判

このほか、これまで秀吉存命中の金貨とされるものに太閤分銅金と圓歩金があります。前者が100目と天正大判よりも2倍強の大型金貨、後者が1.2匁と小額で、「1分」通用向けとみられます。いずれも定量、定品位であることから賞賜・贈答のほか取引にも用いられたのではとされています。しかし前者はともかく、後者の圓歩金は徳川期に入ってから極印に類似したものが認められ、またなぜ小判の額面にも満たない小額金貨が唯一鑄造されたのか理解できません。このため、家康による金貨鑄造の試作段階のものである疑義はぬぐえません。したがって、「金配り」として利用された金貨は、単位が「枚」とされていることもあり、分銅金も含まれていたかもしれませんが天正大判が主だったと考えられます。まさに天下人・秀吉の黄金にふさわしい風格をそなえた金貨であったと言えるでしょう。

なお、「金配り」には金のほか大量の銀も用いられたと思われます。先述のように銀は石州銀や生野の産銀が16世紀半ばから全国的に出回るようになっており、それらを支配するようになった毛利氏や上杉氏等から秀吉のもとに献納されています。今日確認できる現物として、早期のものでは「御公用銀」、朝鮮出兵に関連して作製された「博多御公用銀」（写真18）があり、名称からして献納を前提として鑄造されたことがわかります。ただ、国内では銀採掘の盛行により海外の金銀比価5対1に比べ、銀価が半分近くに下がっており、「金配り」でも使用されたでしょうが、より金が珍重されていたでしょう。



[40% 縮小図]

写真 18 博多御公用銀

1598年に秀吉は伏見城で亡くなります（享年63歳）が、巨額の金銀が遺されました。その額はあきらかではありませんが、2年後の関ヶ原の戦い以降徳川家康が覇権を握り、遺児秀頼の所領は大幅に減少（全国合計220万石から和泉・摂津の65万石へ）します。それでもその15年後の大坂の陣に際して、あきらかに劣勢のなか多数の浪人たちを雇用し、幕府軍に対抗できる軍勢を整えることができるほどの財力を残していたことは周知のとおり。時まさにわが国金銀山採掘ピーク時にあたり、その成果を武威の拡大とともに手中にすることができた結果です。

太閤秀吉の歴史研究はその生涯がきわめてダイナミックであったこともあって、政治史・軍事史方面のものがヤマほど出されています。しかし経済史方面、とりわけ貨幣史については以降の家康時代に比べ、不祥な部分がきわめてたくさんあります。それでもこの時代であきらかなことは、①信長時代の中心貨幣は多種使用されていた銭貨であって、その円滑な流通に為政者が腐心する段階にとどまっていたこと、②秀吉の時代になって金銀が急速に取引の場で使われるようになりますが、まだ贈答・賞賜用がメインであったこと、③つぎの時代に向けて成しえた意義として、取引使用では副次的とはいえ、ほぼ定量・定品位の天正大判を作製し、徳川期銀貨の基準となったなまこ型の丁銀を鑄造して、三貨制への萌芽が確認できるようになったことでしょう。

参考文献

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 小葉田 淳 | 『日本鉱山史の研究』岩波書店、1968年 |
| 柴 裕之編 | 『図説 豊臣秀吉』戎光祥出版、2020年 |
| 藤田 達生 | 『秀吉神話をくつがえす』講談社現代新書、2007年 |
| 堀 新・井上 泰至 編 | 『秀吉の虚像と実像』笠間書院、2016年 |
| 本郷 和人 | 『豊臣の兄弟』河出新書、2025年 |
| 本多 博之 | 『戦国期織豊期の貨幣と石高制』吉川弘文館、2006年 |
| 日本銀行調査局編 | 『図録 日本の貨幣』1、東洋経済新報社、1972年 |
| 日本銀行貨幣博物館編 | 『貨幣博物館 常設展示図録』日本銀行貨幣博物館、2017年 |

「お札の歴史は、二セ札との戦いの歴史でもあった」

大規模な偽札発生の都度、進歩・更新された紙幣の偽造防止対策

(紙幣研究家) 植村 峻

はじめに

およそ歴史的に有名な絵画、工芸品などの貴重品、珍品など価値があるものは、常にニセ物のターゲットになる可能性があるが、それらの収集対象者が限定され、市場性に限界があるものに比べて、政府や中央銀行が発行する信用のある硬貨や銀行券、政府紙幣の場合には、即時支払い完了性、匿名性があり、何にでも使える強制通用力を持ち、また不特定の人々の間を転々と流通し易いため、古今東西において、最もニセ物発生の対象となりやすい性格を持つものである。

ニセ札に対抗するために、各国の中央銀行、印刷局や警察などの国家権力機関は、いかにしてニセ物の横行を防御しようとしたのであろうか。それはニセ札作りを重罪として処罰するだけではなく、ニセ札が現れないように常に各時代における最新の技術を開発し、それを導入、駆使してお札を作るよう、絶え間のない努力を重ねて来たものである。本稿では、この絶えることのない「ニセ札との戦いの歴史」を、国内や国外の実情に関して振り返るとともに、偽札事件を契機に、新たな偽造防止技術を開発、導入してきた長い歴史を振り返ることとするものである。

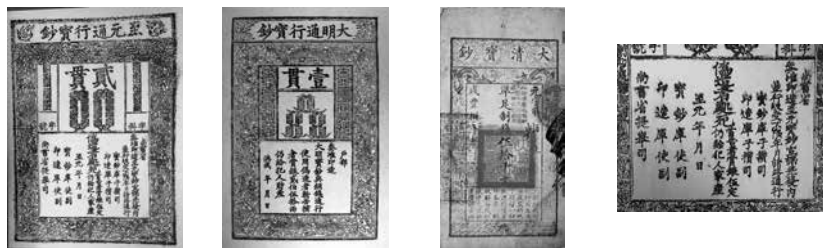
世界のニセ札の歴史

元来、我々が日常生活で使用する「お金」は、銅や金・銀など貴重な素材価値のある金属貨幣であったが、素材自体に価値のない紙製のお札が初めて現れたのは、中国・北宋時代の蜀の国（現在の四川省）成都の街であり、西暦では990年頃であったと言われている。当時蜀の国では、相次ぐ戦乱により他国から輸入していた銅の流入が止まり、やむを得ず卑金属の鉄銭を発行したが、大量の鉄銭を持ち運ぶことは、極めて重く不便であったために、成都の豪商たちが「交子」という「私札の紙幣」を発行したのであった。

この私札の発行方法は、その後の乱発のために破綻し、その代わりに1024年には「益州交子務」という役所が設けられて、公権力によって本格的に用紙の製造から、原版作成、紙幣の印刷、発行を行ったようだ。この紙幣発行は、莫大な紙幣発行差益を生むため、その後の中国の歴代王朝の皇帝たちは、発行権を独占して紙幣を発行したが、正貨の裏付けが不十分な状態での安易な紙幣の増発のため、常に悪性の通貨インフレを誘発してきたのであった。

北宋時代の「交子」は、南宋時代には「会子」「銭引」と名前を変えたが、「宋史食貨史」の記述によると南宋時代にはニセ札が横行し、偽造に対する刑罰が強化され、「徒配」（流刑）から「死罪」に、また密告者への報償や自首犯人への恩赦などが定められた。紙幣乱発による紙幣用紙の品質低下、印刷技法の陳腐化、紙幣の一定期間後の書き換え制度である「界」の廃止、更にインフレによる市民の倫理感の崩壊により、ニセ札が真券よりも多く流通していたとの記述も見られるようになった。

その後、金時代の紙幣「貞祐寶券」の券面には、「偽造者斬賞寶券參壹伯貫」の偽造処罰と密告報償の文言が印刷されたが、元王朝帝国の「中統元寶交鈔」「至元通行寶鈔」、明時代の「大明通行寶鈔」、清朝時代の「戸部官票」にも、券面にほぼ同様の文言が表記されるなど、中国歴代の皇帝は常にニセ札の横行に苦慮していた



(図版) 券面に偽造処罰文言が印刷された中国元王朝時代の「至元通行寶鈔」、明時代の「大明通行寶鈔」、清王朝時代の「大清寶鈔」、各券面下部には「偽造者処死、通報者に報奨金と犯人財産を支給」などの表示

ことが推測される。これを防ぐため「戸部官票」では、手形のようにお札を受け取った人がお札の裏面に署名を記入し、真券であることを担保するという事例も見られた。これら中国の紙幣の寸法は、いずれも大型で、「至元通行宝鈔」や「大明通行宝鈔」が縦 30 センチ、横 22 センチ、清朝の「戸部官票」はやや小型で縦 25 センチ、横 15 センチ、低額券の「大清宝鈔」でも縦 28 センチ、横 15 センチであり、とても財布に収められるような大きさではなかった。各紙幣とも、表面には偽造処罰文言が明記されていたほか、偽造防止のために様々な多くの朱印が押されていた。これらの紙幣は高額券であるためか、裏面には取引した人々の裏書署名が印字される事例が多かったのであった。

欧州におけるお札の出現は、英国では 17 世紀に金細工師が保管した金銀などの預り証である「金匠手形」が次第に一般に流通するようになり、やがてこれが私札の「金匠銀行券」として商人などの間で流通するようになった。当初は極めて高額紙幣であったため、庶民にとっては高嶺の花であった。

最初の国立銀行券は 1660 年代にスウェーデンのストックホルム銀行から発行されたが、これも中国の例とほぼ同じで、戦争により銀貨が不足したため、代替としての大型で板状の銅板貨が発行されたが、これらは重くて運搬に不便であったため、国王の許可を受けて銀行券が発行された。スウェーデン銀行の博物館に保管されている当時発行の銀行券のコレクションのうちに半数以上は、ニセ札であることが判明しているなど、欧州でも大量のニセ札が横行していた模様である。



(図版) 券欧州で始めて発行されたスウェーデン銀行券。偽造防止対策は、銀行総裁等のサインとエンボス空押し印章



(図版) 重くて不便だった銅版の通貨「1/2 ダーレル銅貨」(1745 年発行) 87 × 92 ミリ、380g

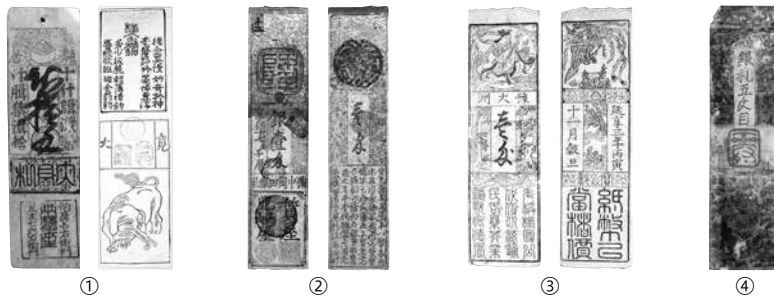
日本の藩札の偽造と、その偽造防衛策

日本における紙幣の出現は慶長年間の 1610 年頃で、伊勢山田地方の有力な豪商たちが主体となって発行した私札「山田羽書」である。紙幣出現の発端は、それまで認められてきた秤量貨幣「丁銀」の切り遣いが徳川家康によって禁止されたため、端数金額の決済のために長方形をした紙製のお札に端数金額を墨書きで表示し、支払文言等を印刷、印章を押印して発行した端数金額のお札であり、「端書」「羽書」と呼ばれた。

やがて江戸時代に入ると藩財政の困窮から、幕府の許可を受けて領内で流通する紙幣として「藩札」が全国各地で発行されるようになった。最初の藩札は寛文元年(1666 年)発行の福井藩札であり、偽造防止のため図版入りで、偽造処罰文言が印刷された。藩札は凸版方式による木版刷りで、その中央に墨書き、そして印章が押印されていた。その後、藩札の発行は幕府の許可を得て全国に拡大し、江戸末期には 208 藩で発行され、発行金額も膨大なものとなった。そのほか、寺社札や有力商人等が発行した私札も多く使用された。

これらの藩札では、偽造防止と信用維持のために、大黒天や弁財天などの七福神の姿を印刷したものや、独自の図柄や書体を用いたものや、更に一部の藩札では透かしを用いたほか、様々な偽造防止対策を講じたのであった。また、藩札の偽造を防止するために、券面に偽造防止のために処罰文言を印刷した事例も多くみられた。

藩札の偽造取り締まりは藩毎に異なったが、幕府の正貨偽造に準じて偽造犯は死罪など、一般に刑罰が極めて厳重であったほか、連帯責任体制を採り市民による相互監視体制を採用していた。一方、藩札の製造管理面では、藩札用紙の抄造を名塩、美濃、越前など藩札用紙専門の特殊技法を持ち、かつ管理の厳しい特定の紙漉き場に委託し、印刷については札役所で版木を分割して管理する方式が多く採用された。また、一部には透かし入り用紙や染付け、緻密な図柄や独特な書体の文字印刷、更にごく一部では銅版印刷を採用するなど、偽造防止技術の面でも、様々な工夫を凝らした藩札が多かった。一部の藩札には、券面に偽造処罰文言を記載していたものの、もちろん偽造券は存在したが、藩札の流通する範囲は、当然ながら原則として各藩内だけであるため、さほど極端に大量の偽造事件は見られなかった模様である。



(図版①) 初めての藩札「福井藩札」表面と裏面、裏面には偽造処罰文言を印刷
 (図版②) 藩札の裏面に偽造処罰文言が印刷された備中・岡田藩札の表裏面(「若有贖物法当必刑」の記載)
 (図版③) 伊予大洲藩の藩札、通常では藩札には偽造処罰文言はなく、微細な図柄の印刷や押印がある。
 (図版④) 司馬江漢による銅版印刷の「高槻藩銀札」五文目札、偽造しにくい極細の凹版画線が特徴

もちろん大部分の藩札の印刷方式は、凸版単色印刷や墨書き方式で、偽造防止のための印鑑が押印されていた。しかし例外的には「高槻藩札」や「郡上藩札」のように、銅版彫刻師の玄々堂・松田敦朝などが銅版彫刻による細い画線を用い、偽造が困難な「銅版印刷」による藩札が、主に近畿地方で用いられたが、やがて明治維新の際には、その偽造防止技術が高く評価され、明治新政府発行の「太政官札」などの製版、印刷に用いられることとなったのであった。

頻発した「太政官札」の偽造と、その解決策はドイツへの紙幣製造発注

一方、明治維新前には旧福井藩士であった三岡八郎(後に「由利公正」と改名)が新政府に採用され、財政難に苦しむ明治政府の太政官に所属する役人となり、藩士時代に経験した金銀貨幣とは交換できない「不換紙幣」発行の経験を生かして、維新直後の慶応4年以降に発行された不換紙幣である「太政官札」や「民部省札」などの官省札発行を提案した。彼からの提案は採用され、全国的に通用する銀貨などの本位貨幣とは兌換できない紙幣として導入されて、新政府の資金不足に貢献したのであった。即ち、太政官札や民部省札などの用紙は、江戸時代の藩札と同じ「楮」を主原料とし、また印刷に関しては凸版方式でないものの、関西の一部の藩札で使用されていた「銅版彫刻」によって製版されたものと同じ一種の凹版印刷方式であり、その技術は江戸時代とあまり変わらないものであった。由利公生が担当した当時の藩札は、その藩内だけで通用する製造枚数が少ないものであったが、全国的に通用する太政官札の場合には、製造枚数が藩札と比べると極端に多く、手動式ではあるものの、銅版印刷機の強圧による印刷によって、短期間で版面が摩耗した。当時はまだ版面の正確な複製方法がなかったため、多くの彼の部下の彫刻者たちが、その都度、新しい版面を彫刻することとなった。その結果、僅かではあるが、文字や図柄が若干異なる銅版彫刻の紙幣が必然的に発生し、品質に僅かなバラ付きのある太政官札等が多く発生し、市場に流通したため、日本各地で本物を真似した精巧な偽造券が多発する要因となったのであった。明治新政府は「贖模紙幣巡察順序」という規則を制定し、「贖札改所」を各地に開設して、紙幣の真偽を判別する業務を行うなど、偽造防止に務めた。しかしながら、明治維新後の藩財政の破綻から、例えば博多藩のように藩ぐるみで大量の太政官札を偽造し、それが見破られ責任者の藩の家老や、多くの藩士たちが処刑された事例があるなど、全国各地で偽造

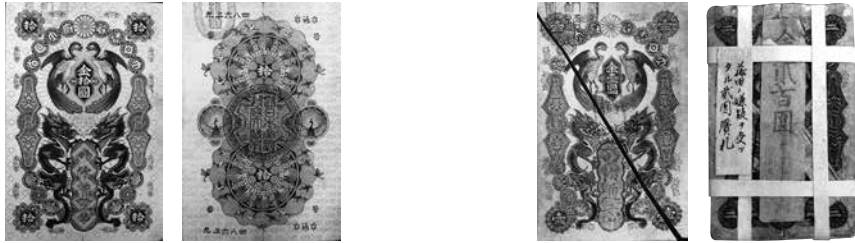


(図版) 偽造券が多発した明治初期発行の「太政官札」10両の表裏、低額の「民部省札」も偽造された。

(図版) 偽造防止のため、オーストリアで印刷された証券を裏面に貼付した「開拓使兌換証券」

券が多発したのであった。また、中国・上海で作られた精巧な太政官札も日本国内に持ち込まれるなどの事件が相次ぎ、一般大衆の太政官札等に対する不信感が拡大し、通貨価値が一時期大幅に低下するなど、新しい通貨に対する信頼が揺らいだ。そのため、明治新政府の通貨当局はもちろん、明治新政府の高官たちも、その対応に追われたのであった。

ドイツ製の「ゲルマン紙幣」の偽造事件と、その後の対策



(図版) 明治通宝札 (通称：ゲルマン紙幣) (表面) (図版) 裏面

(図版) 偽造されたゲルマン紙幣の束

そのため政府は、国内での紙幣製造を断念し、印刷技術が進んだ外国に紙幣の製造を委託する方針を決定した。当初は英国に発注する予定であったが、ドイツ公使から政府の高官に対して強力な売り込みがあったため、発注先を変更した。ドイツ側の提案は、新技術を用いた偽造抵抗力の強い「政府紙幣」を製造供給するほか、必要であれば、欧州の優れた先進技術の伝授や、印刷機械類の譲渡も行うとの好条件が伝えられた。その結果、明治政府はドイツ・フランクフルトのドンドルフ・ナウマン印刷所に、新紙幣を発注することを決断し、ドイツ製の新紙幣 (通称「明治通宝札、ゲルマン紙幣」) が、「明治通宝」の文字や印章などのない半製品の形態で日本に輸入されたのであった。

明治政府は、ドンドルフ・ナウマン社との約束に基づき、お雇い外国人の雇用や、紙幣印刷関連の機械類を有償で導入することとなり、新しく東京・大手町に建設された当時としては近代的な煉瓦造りの「大蔵省紙幣寮」において、お雇い外国人たちの指導の下に、近代的な紙幣の国産化計画が進んだのであった。

明治政府は、ドンドルフ・ナウマン社との約束に基づき製造された新紙幣は、従来の日本の紙幣では見られなかったような細かい凹版画線を用いて雙龍や鳳凰の姿などを印刷、また地模様にはエルハート凸版の技術を用いて、細かい精緻な図柄を多く印刷したほか、仮に版面の摩耗があっても、当初発行の紙幣とは全く同一で、変化のない複製版面が作れる「電胎法」によって、正確で均一な細画線を用いた紙幣を作る技術を、日本の技術陣に習得させた結果、ゲルマン紙幣の偽造は殆んど皆無であった。

しかしやがて、この精巧な印刷のゲルマン紙幣の偽造事件も発生した。明治 11 年頃には精巧な筈の「ゲルマン紙幣」2 円札の偽造券が、関西地方で大量に流通し、一時期には明治期の御用商人といわれた藤田組の社主・藤田伝三郎が、部下の密告により逮捕されるなどの「ゲルマン紙幣偽造事件」が発生したが、結局この藤田組事件は部下の職員による虚偽の申告であり、彼は証拠不十分で無罪となったこともあった。

また、この紙幣の微細な図柄を、銅版印刷や筆で描いて偽造券を製造したとして、教育者で画家の熊坂長庵が逮捕され、無期懲役の判決で獄死するという事件も発生した。

確かに微細な美しい印刷の「ゲルマン紙幣」であったが、使用している用紙が藩札などに比べて脆弱で、破れやすく、また 2 券種ごとの紙幣の寸法が同一であるほか、刷り色は異なるものの、図柄自体が同じであるなど、その図柄が日本の風土に合わないなどの声もあり、発行当初は精緻な紙幣であるとして好評であったゲルマン紙幣は、次第に人々から愛されなくなり、日本独自の紙幣や銀行券を期待する声が多くなった。

アメリカ製の「国立銀行紙幣 (旧券)」の偽造防止対策

伊藤博文は、日本と同様に国内で戦われた南北戦争の終結後も、比較的安定した政治経済情勢下にあったアメリカの金融制度などを視察するために、自ら希望して渡米した。そして、直刻凹版印刷技法を中心としたアメリカの銀行券製造の民間会社も視察し、当時のアメリカ財務省の推薦もあり、当初は日本の大蔵省の了解なしに、独断でニューヨーク市のコンチネンタル・バンクノート社に新しい紙幣の発注を依頼した。もちろん後日、紆余曲折もあったが、大蔵省幹部の了解も得て、当時のアメリカの銀行券のデザインや印刷技法をモデルとして、

実際は民間の各銀行発行の紙幣だったが、その名称は「国立銀行紙幣（旧券）」という金兌換銀行券を導入したのだった。この紙幣は、当初は金兌換券であったため、紙幣を発行しても、すぐに金貨と兌換されたため、初期段階では僅か4行しか紙幣を発行せず、しかも殆どその紙幣は殆ど流通することはなかった。

この「国立銀行紙幣（旧券）」の図柄に関しては、その原画の約半数が日本国内からアメリカに送付されたものであったが、紙幣に使用する画材の資料が大幅に不足していた。一方、江戸末期に訪日して日本各地を取材したスイスの通商代表団長であったアンペールや、彼に同伴した写真家やデザイナーにより撮影や描写された江戸末期時の日本の風景や歴史的な資料、図版を多く収録した書籍「日本図誌（Le Japon Illustre）」がフランスで発行され、その書籍から多くの図柄が、紙幣に流用されたのであった。

また、紙幣の図柄構成や記載された発行や偽造処罰等に関する文言は、当時のアメリカの銀行券を殆どそのまま翻訳し、引用したものだ。国立銀行紙幣（旧券）は、重厚な凹版印刷を用いたため、偽造券は殆ど発生することがなかった。特に、この銀行券に印刷された紙幣発行の根拠等や偽造禁止等の文言は、当時のアメリカ紙幣の文言を殆どそのまま翻訳したものであった。



（図版）当時のアメリカの10ドル紙幣の裏面



（図版）国立銀行紙幣（旧券）5円券の裏面

殆ど同じ体裁の構図であり、上部の紙幣発行等の根拠文言や、下部の偽造禁止文言も、英文を殆どそのまま日本語に翻訳されたものであった。



（図版）裏面の最下部に印刷された偽造禁止文言

日本で初めて採用された西洋式の「国立銀行紙幣（新券）」

明治8年1月には、ゲルマン紙幣のデザインと凹版彫刻などを担当した当時42歳のイタリア人の凹版彫刻師・エドアルド・キヨッソーネが、お雇い外国人技術者として大蔵省紙幣寮に採用された。また、前年12月には元ナウマン印刷会社の社員であった人材も、お雇い外国人技師として採用され、凹版印刷技師ブリュック、凸版印刷技師リーベルスと共に、当時の西洋式の最新紙幣印刷技術を日本の「紙幣寮」の技術者に伝授することになった。キヨッソーネは、近代化に必要な各種の証紙、郵便切手、債券類など各種の政府が必要とする証券類のデザインや製版作業に、殆ど休日を返上して懸命に仕事に従事した。一方、銀行券に関しては、アメリカで製造された「国立銀行紙幣」（旧券）を製造したニューヨークのコンチネンタル・バンクノート社が営業を終了してしまい、旧券の追加製造が困難となったため、お雇い外国人の技術者・キヨッソーネによるデザイン、凹版彫刻など西洋式の紙幣製造技術に関する実務、指導等によって、初めての国産の西洋式銀行券の製造に取り掛かった。

銀行券の図柄は、当時の日本政府の国家的方針である「富国強兵」、「殖産興業」を反映した銀行券の図柄とするために、デザイン、凹版彫刻、更に版面の複製技術を、キヨッソーネに依頼したものであった。第1号の西洋式国産紙幣として、1円券の「水兵札」が明治10年に、また第2号の「鍛冶屋札」が翌11年に製造発行された。ただし、裏面の「恵比寿」像は、キヨッソーネが多忙であったため、同じイタリア出身で、工部美術学校の彫刻学科の教授を務めていたヴィンチェンツォ・ラギーザが凹版彫刻を担当した。

これらの国立銀行券は、地模様をエルハート凸版方式で、また水兵達や鍛冶屋の作業員などの人物全体像を、直刻凹版技術を駆使して表現したものであり、人物肖像のような微細で微妙な凹版画線はまだ使用していなかった。この新銀行券には、表面の「大蔵卿」の朱印のすぐ下部には、従来の旧券と同様に、「此紙幣ヲ贋造シ或ハ贋造ト知テ通用スル者ハ国法ニ処スベシ」の偽造処罰文言が、印刷されていた。

この「国立銀行紙幣（新券）」には、重厚で微細な凹版彫刻画線による印刷で、文言や画像が使われていたほか、エルハート凸版印刷による微細な地模様なども印刷されていたため、この新券の偽造は全く発生しなかった模様である。



(図版) 国産の西洋式「国立銀行紙幣」五円(新券)



(図版) 大蔵卿印の下部に凹版印刷された「此紙幣ヲ贋造シ或ハ贋造ト知テ通用スル者ハ國法ニ処スベシ」の偽造処罰文言。



(図版) 国立銀行紙幣 1円券の表面

偽札がほとんど無かった国産の政府紙幣「神功皇后札」の技術

当時の最新式の西洋式技術を用いた国産の国立銀行紙幣(新券)は、いずれも製造は大蔵省紙幣寮であるが、発行は券面に表示されている民間の銀行であり、国家として発行する紙幣や銀行券ではなかった。そのため、通称「ゲルマン紙幣」である政府紙幣の改造版として、新たに明治14年から16年にかけて、改造政府紙幣としての「神功皇后札」を製造発行したのであった。この先進技術を取り入れた国産紙幣の製造に踏み切ったのは、偽造に対する効果的な手段として、本格的な人物肖像を採用したことであろう。なぜなら、人物の肖像は、微妙な変化があっても、人々はすぐにおかしいと気が付くからである。もちろん、肖像のほか緻密な地模様も有効な偽造防止対策となっていた。さらに、「神功皇后札」では、券面の下部に「偽造処罰文言」を記載し、贋札の横行を抑制するための注意喚起も行っている。

さすがに、この「神功皇后札」は優れた政府紙幣であり、人々から愛されたほか、偽造券も発生せず、当時の西欧の外国人達からも称賛の声を得る紙幣となっていた。

凹版彫刻者キヨツソーネは、人物の肖像を彫刻する際には、必ずモデルとなる人物の容貌を仔細に観察してデザインし、微細な画線を使って凹版彫刻するという技法が特徴であったため、当時紙幣寮に雇用されていた女性の職員をモデルとして、写真撮影を行い、それに基づいて優雅な女性肖像を凹版彫刻したのであった。しかし、最初に発行した1円券の「神功皇后のお姿」が、外国人の女性に似ているという世評を気にして肖像に改造を加え、最後の10円券では日本人らしく、しかも気品のある優れた人物肖像を完成させている。人物の拡大された精緻な肖像は、ごくわずかに変形しても、すぐに真偽を判別できるという特性を持っていることから、偽造防止効果が極めて顕著であるため、日本だけではなく、当時世界的にも紙幣に多く採用されていたのである。人々に愛された「神功皇后札」であったが、残念ながら発券銀行である「日本銀行」の創設と、兌換銀行券制度の発足に伴い、この優れた政府紙幣の役割は、僅か3年間で製造が終わりとなってしまったのであった。



(図版) 改造紙幣1円券・外国人のようなお姿の神功皇后



(図版) 各券種の中央下部の円形の中に「此紙幣ヲ贋造シ或ハ贋造ト知テ通用スル者ハ國法ニ処スベシ」の表示



(図版) お雇い外国人彫刻師がデザイン、細かい凹版画線で凹版彫刻した10円券の優雅で品格のある「神功皇后」のお姿

『大黒札』に見る偽造防止対策

明治10年に西郷隆盛の指導で展開された西南戦争に際して、明治新政府は多額の戦費の調達と明治新政府軍の大量動員を行い、反乱軍を圧倒的な軍力で攻撃し、勝利を勝ち得たのであったが、その戦争遂行のための費用は、国立銀行紙幣や政府紙幣を大量に製造、発行して調達した。その結果、日本全体が深刻な「通貨インフレ」に直面したのであった。この激しいインフレを克服するために政府は、急激なデフレ政策を断行することとなった。また政府は通貨発行制度に関して抜本的な改革実施を決断し、当時の大蔵卿・松方正義は明治天皇のご裁可を得て、急激なデフレ政策を実行することを決意、従来153行もの乱立された全国各地の私立銀行である「国立銀行」から発行されてきた「国立銀行紙幣」の発行権限を明治14年の法改正で廃止させ、唯一の発券銀行としての「日本銀行」を設立し、銀貨と兌換する「兌換銀行券」を発行する方針を定めたのであった。そして、明治18年以降、日本銀行から銀本位制に基づく「兌換銀券」を発行したほか、一方では急激なデフレ政策を断

行した。明治18年から19年にかけて発行された「日本銀行兌換銀券」には、江戸時代の藩札などで多く採用された「財神」として知られる「大黒天」の図柄を用いることとなり、ほぼ同じ図柄の1円、10円、100円、そして最後に裏面に大黒天を描いた5円券の4券種を発行したのであった。

これらの兌換銀券発行に際しては、重要な偽造防止対策として、当時フランス銀行が全券種に採用していた「青色インキで印刷した画像」の方式を採用した。その理由は、「黒色インキ」で印刷された画像や文字は、当時の写真製版技術を使って、比較的容易に複製が可能であり、偽造券誘発の危険性があったからである。当時の写真製版技術では、青色インキを用いた紙幣の図柄を再現することは極めて困難であったために、フランス銀行券では、1862年以降1889年頃まで、全銀行券の図柄や文字をすべて淡い青色インキを採用していた。そのフランスの新しい偽造防止技法を真似て、日本でもその技法を明治18(1885)年発行の「大黒札」に採用したのであった。

当時紙幣用紙には、わが国独自の紙幣用紙の材料として「みつまた」を採用していたが、みつまたの繊維はやや淡い茶色であり、青色インキで図柄を印刷すると、シャープに表現できないため、みつまたの繊維を塩素剤で漂白して白色化すると、水色の『大黒天』などの図柄がはっきりと見えると考え、用紙の材料中に漂白剤を混入したものであった。しかし、その結果、紙幣の紙質が劣化し易くなるため、澱粉質の蒟蒻の粉を混入させて用紙の強度を強化したのであった。そのほか、人々に知られた大黒天の図柄、表面上部分には、連続マイクロ文字「壹円兌換銀券」「ONE YEN」の連続文字を放射線状に印刷し、レリーフ模様で「銀貨一圓コイン」の図柄を印刷し、英文の筆記体で「銀兌換の文言」を印刷した。また裏面には兌換銀行券条例第十二条の偽造処罰文言「兌換銀行券ノ偽造変造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本条條ニ照シテ処断ス」と印刷するなど、それなりの偽造防止対策を講じたものであった。



(図版) 明治18年発行の日本銀行兌換銀券1円券



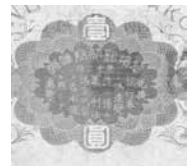
(図版) モデルとなった当時のフランス銀行券



(図版) 券面上部の放射状「連続マイクロ文字」



(図版) 凹版の大黒天像



(図版) 壹円券裏面の「兌換銀行券条例第十二条 兌換銀行券ノ偽造変造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本条條ニ照シテ処断ス」の表示

しかしながら、せっかくの新企画の紙質強化対策ではあったものの、当時の各家庭の収蔵用の金庫にあたる「衣服筆筒など」に収納された新紙幣が、筆筒に多く潜んでいた虫によって、紙質強化のために混入した澱粉質である蒟蒻の粉入りの繊維を齧り食われるという「虫食い券」が全国各地で多発した。そのため「破損した虫食い紙幣」の交換要請が日本銀行に殺到し、製造元の印刷局はその補償に忙殺される結果となった。

更に、先進国フランスでは考えられないような事態が、日本では発生した。それは青色インキの中に含まれていた鉛白の元素が、硫化水素分を多く含む日本の温泉では、化学反応を起こして黒変するという予期せぬ事態となり、写真製版による偽造を誘発する要因となったのであった。このような虫食い券発生と温泉での青色インキの黒変という思わぬ事態が発生、また明治19年には早くも偽造券も発見され、残念ながら「大黒札」は発行後、僅か3年程度で発行を断念する結果となってしまった。

閣議決定による7人の肖像人物決定 その偽造防止効果は？

このような緊急事態を受けて政府、大蔵省印刷局、日本銀行の関係者、お雇い外国人技師キヨッソーネ等は、抜本的な兌換銀行券のデザインや偽造防止対策の検討に入り、様々な検討が行われた結果、明治20年には松方正義・大蔵大臣から伊藤博文・内閣総理大臣あてに、銀行券に肖像を採用する閣議請議の公文書が提出された。

その上申書によると、紙幣の偽造を予防するためには、緻密な図柄を描くこと、特に真偽を識別しやすい我が国の古来の著名な人物肖像を使用することとすることで、今後発行する銀行券には7人の人物の肖像を採用する方針を、明治20年9月の閣議で決定し、明治天皇のご了承も得たものとなった。紙幣の人物肖像を印刷するという方針は、既に諸外国の紙幣において、精緻な肖像彫刻を用いて、著名な帝王、大統領、宰相など人物肖像を多く採用しており、著名な人物肖像を採用することにより、一般大衆が容易に銀行券の真偽を判別できるからであるとされた。そこで日本の紙幣でも、古来から天皇や天皇制を支えてきた著名な忠臣7人を選定したのだった。

当然ながら古来の人物の正確な肖像の図絵などが残されていないことが多いため、「史実に照らし、古書の記述に則り、その人物の風采を憶念し、独特の画法を用いて、潜心焦慮描写」すれば、その人物の特徴を描き出し、偽造の意図を削ぐとして、今後発行予定の銀行券の肖像には、日本武尊、武内宿禰、藤原鎌足、聖徳太子、和氣清麻呂、坂上田村麻呂、菅原道真の7人の人物を選定したのであった。当面は4券種だけ発行することとなり、この7人のうちの武内宿禰、和氣清麻呂、菅原道真、藤原鎌足の4人が新規に発行される「日本銀行兌換銀券」の肖像として、採用されることとなった。

これらの人物の精緻な図絵は、彼らを祀る神社などに所蔵されていたが、紙幣の肖像に採用するには精緻な凹版画線を駆使する必要があった。そのため、凹版彫刻の名手と評価されたお雇い外国人彫刻師・キヨッソーネが、専門の学者等の意見や資料を基に、その人物に相応しいと思う現存する人物の写真などを基に、スケッチ・デッサンをして肖像を描き、これを基に凹版彫刻の腕を振るったのであった。

当時の記録などによると、ゆたかな髭が特徴の「武内宿禰」は、当時東京・お茶の水にある神田明神の神官であった顎鬚の豊かな国学者・本居豊穎（著名な「本居宣長」の義理の曾孫）、「和氣清麻呂」はイメージの合う人物として明治維新の元勳・木戸孝允、「藤原鎌足」は当時の大蔵大臣・松方正義の写真などを基にしてデッサン、凹版彫刻を行った模様である。一方、「菅原道真」の場合はモデルとなる人物はいないが、菅原道真を祀る太宰府天満宮や京都・北野天満宮の精緻な板絵や絵巻を参考にして、学者の意見やキヨッソーネによる写真を基にした図柄を基にデザインし、凹版彫刻したとされている。



(図版) 明治20年8月裁可の閣議請議「兌換銀行券人物描出ノ件」



(図版) 明治20年の閣議請議に基づき銀行券に採用された肖像とモデルとなったとされる人物

また、兌換銀券の用紙には、大蔵省印刷局の製紙部門・抄紙部の技師たちによって開発されたシャープな「白黒透かし」を用いて、大黒札に続いて新しく発行される「兌換銀券」各券種に採用された技法が極めて効果的な偽造防止対策となったため、政府は「すき入れ紙製造取締規則」を制定、民間による白黒透かしの使用を規制したため、紙幣用紙面でも「シャープな白黒透かし」が、世界の銀行券でも見られない、極めて有効な偽造防止対策となり、新しく発行される兌換銀券4券種に、早速採用されたのであった。



(図版) 精緻な凹版画線を駆使し、また空白箇所のシャープな白黒透かしが識別できる兌換銀券の各券種

金兌換制度の下で発行の銀行券の偽造事件とその対応策

せっかく開発された優れた白黒透かしを用いた兌換銀券であったが、明治32年4月発行の金兌換制度移行後に発行された兌換券の「甲五円券」等では、デザイン面で白黒透かしがはっきり認識できないように、凹版印刷で表面の肖像、宇倍神社の風景を券面いっぱい印刷し、「白黒透かし」はあまり目立たない左上部分の箇所小さく用いたものとなった。その結果、人々は日本が得意とした透かしによって銀行券の真偽を識別できなくなった。一方、当時欧州で急速に発達した写真製版技術を悪用した偽造券が、わが国でも流通することとなったのであった。その偽造技法は、銀行券を丁寧に表裏2枚に剥がして、表面の凹版部分だけを転写技法を用いて、偽造券用の凹版原版とし、偽造券を制作したものであり、この「白黒透かし」のない偽造券が、日本各地で多く流通したが、人々はそれが偽造券であることを容易に認識することができなかった。



(図版) 凹版印刷に重点を置いた「甲五円券」の表面と裏面



(図版) 目立たない箇所にあった白黒透かし



このような事態を憂慮した大蔵省や司法省の幹部が印刷局に集まり、早急に甲五円券を改造するよう検討が始まったが、あいにく日露戦争(明治36～37年)の真最中であつたため、対策が遅れたのであった。その後明治39及び40年頃に、印刷局の技師たちが偽造防止対策調査のために、オーストリア・ウィーンやドイツ・ベルリンの銀行券印刷所にも赴き、技術指導を受けたところ、やはり当時の最高の偽造防止対策は、「透かし」であることが分かり、帰国して、偽造防止対策の検討にあつた。

当時の偽造券対策の検討には、日本銀行の高橋是清副総裁や、警察庁の関係者も交えて、印刷局において真剣な検討が行われた結果、ドイツで1906年に発行された「10 マルク券」が最も有効な偽造防止効果があると判断、早速改刷の作業に取り掛かった。

参考にされた銀行券は、券面に大きな円形の空所を設け、そこに「マーキュリー神の肖像」を白黒透かしで透き入れるとともに、当時進歩した写真製版技術による偽造を防ぐため、黒色ではなく、淡い緑色の凹版インキを用いて人物の肖像や文字を印刷し、更に裏目には微細な着色繊維を混抄した紙幣用紙を採用するなど、当時としては画期的な技術を多く採用した銀行券であった。



(図版) 1906年発行のドイツの10 マルク券の表面



(図版) 円形の中に透き込まれた神様の肖像



(図版) 10 マルク券の裏面



(図版) 裏面右端に混抄された微小な着色繊維(拡大)



(図版) 不評だった乙五円「透かし大黒札」の表面



(図版) 乙五円券の透過光下の状態



(図版) 白黒透かし

その優れたドイツ銀行券の技術を日本でも採用することが決まり、明治43年9月に「乙五円の金兌換券」が発行された。この新券では、表面左の円形部分に、大黒天の姿を大きく滲入れるとともに、菅原道真の凹版印刷による肖像も、写真製版技術で複製が難しい緑色で印刷し、更に裏面には細く短い着色繊維を紙幣用紙に混抄したものであった。この新しい乙五円券を見て、当時の日本銀行や警察、印刷局の技術者たちも、心から歓喜の声を上げたのであった。

しかしながら、当時の一般の人々は「すき入れ技法」に関する知識が欠如していたほか、発券当局等による一般国民に対する最新技術に関する情報やPRも不足していたため、人々からは円形の空白部分が印刷漏れではないかという声が多く、更に偽造防止のために採用した緑色の肖像が、太宰府に左遷された菅原道真の悲しい表情を表しているなど、一般大衆の評判は極めて悪く、通称では「幽霊札」との批判が多く聞かれた。

さすがに新技術を採用した乙五円券の複製は難しく、偽造券は全く発生しなかった。

しかしながら、偽造防止対策が万全なこの乙五円券は、世論が極めて不評であったため、急遽製造が中断され、極めて短期間の流通となってしまった。そして、大正5年には伝統的な技法を駆使した「大正武内五円券」に引き継がれたのであった。

また、乙五円券に引き続き発行予定だった十円券は、急遽予定していた円形の透かし部分に「和気清麻呂」の肖像印刷に変え、肖像予定部分には清麻呂を祀る京都・談山神社の神殿を描く、わが国で唯一の左肖像の銀行券「左和気十円券」として、大正4年に発行されたのであった。もちろん微細な地模様や、よく目立つような桐模様も採用していた。更に大正5年に発行された「5円券」では、白透かしによる「日本銀行」の大型文字のほかに、券面全体に網目・格子状の白透かしを採用するなど、偽造防止対策に万全を尽くすように改良されたのであった。



(図版) 幽霊札の影響で、唯一の左肖像となった乙十円券



(図版) 分りにくい「桐花透かし」と微細地模様



(図版) 大正5年発行の「大正武内五円券」と、その「画期的な文字と格子状」の抄き入れ模様



混乱時期後の昭和5年発行「聖徳太子肖像の乙百円券」の偽造防止対策

その後の我が国の銀行券の製造は、大正12年発生の関東大震災によって、内閣印刷局が全焼するなどの災害に見舞われ、新たに東京・滝野川に新工場を再建したものの、昭和2年の金融恐慌発生に伴い、簡易な裏白二百円券を緊急発行するなど、混乱が続いた。また明治以降発行してきた様々な銀行券が多種類発行、流通していたため、混乱を避けるために、従来発行された銀行券を無効とし、新たに偽造防止対策が万全な新しい人物肖像の「聖徳太子」を描いた「乙百円券」を昭和5年に発行し、これに併せて新しく十円、五円券なども製造・発行することとなった。

特に新しい乙百円券には、初めて聖徳太子の肖像や法隆寺の図柄を採用した。また、偽造防止対策も新たに採用したほか、他の券種にも最新の偽造防止対策を導入したものであった。その新技法とは、お札を明るい方向にかざすと、容易に精緻な白黒透かし模様が観察できるほか、表面には精緻な凹版や地模様、裏面には初めて凹版2色ザンメル印刷を採用して、緻密な法隆寺の建物や鳳凰像などを印刷した。また他の券種も、従来とは異なる緻密な凹版細画線模様、容易に判別できる透かし模様などを採用した。



(図版) 乙百円券の表面



(図版) 精緻な凹版2色印刷の裏面



(図版) 識別し易い白黒透かし

その後、日本は兌換銀行券から管理通貨制度に移行して、より簡易な銀行券の印刷に追い込まれ、更に対中国戦争や、大東亜戦争に突入して、粗末な銀行券の製造を余儀なくされた。しかし、戦時体制のために偽造券の発生は殆ど少なくなり、偽造防止対策が粗末な銀行券や政府紙幣であっても、殆ど偽造券の発生の情報は存在しない状態であった。一方、戦争の拡大に伴い、当初は優勢であった日本は、占領地区等での銀行券の需要が急拡大し、印刷局だけでは対応できないため、民間の証券印刷会社や製紙会社も動員して、占領地域だけ

ではなく日本本土の銀行券、紙幣の製造にも民間の証券印刷や製紙会社の応援を求めるような多忙な状態となった。しかし、取締まりの厳しい戦時中のためだったせいか、偽造券はあまり多く発生しなかった模様である。

日本陸軍の「登戸研究所」での中国紙幣の本格的な偽造作戦

日中戦争の拡大に伴い、旧満州国に設立された「満州中央銀行」では、独自の銀行券を発行したが、それらは当初日本の印刷局で製造されたものであった。その後、日本軍が占領した地域では、中華民国の「中央儲備銀行券」が発行されたが、当時中国大陸の大部分の交戦地区では、中国政府が発行する「法貨」である四大銀行（中国銀行、中央銀行、交通銀行、中国農民銀行）発行の銀行券を、自国ではなく、それぞれの銀行がアメリカやイギリスの民間印刷会社に委託製造し、発行していた。それに着目したのは旧日本陸軍であり、大量の偽造通貨を中国大陸で流通させて、経済の攪乱を起こすという馬鹿げた異常な軍事作戦を採用したのであった。当初日本陸軍は、内閣印刷局の援助により法貨偽造作戦を実施する計画であったが、あまり積極的な賛同を得られず、民間の証券印刷会社や製紙工場の協力の下で、兵器行政本部所属の第9技術研究所（略称：登戸研究所）にて、本格的な偽造券製造に着手したのであった。この地域は、多摩川の近くの丘陵地帯にあり、現在では明治大学生田校舎となっている区域である。

この研究所には、有線や無線、盗聴、風船爆弾などの電気関係を担当する第1科、爆弾や毒物、化学物質を担当する第2科、通貨偽造を担当する第3科、それに第4科で構成され、第3科の責任者には、山本憲蔵・陸軍主計大佐が就任していた。当初段階では、内閣印刷局側は通貨偽造防止上の制約もあり、また占領地での通貨や軍票の製造に追われて、極めて多忙であったことや、その後も「透かしや製版技術」などの秘法は明治20年制定の勅令「滲入紙製造取締規則」により外部に伝授しないなどの厳しい制約もあり、あまり登戸研究所の法幣偽造作戦には関与しなかった模様である。

そこで登戸研究所側は、基本的には民間の製紙会社や印刷会社の協力を得て、偽造券を製造する方針を定め、大手の証券印刷会社や特殊製紙会社の技術職員を採用して、残された記録によると、偽造券の製造に邁進した模様である。特に高価な銀行券の製造機械は、ナチス・ドイツが支配するドイツの印刷機メーカー製のイリス凸版多色輪転印刷機を極めて高価な価格で購入、はるばる軍艦で日本まで輸送し、登戸研究所に据え付けたのであった。登戸研究所第3科には、このイリス凸版輪転印刷機など8台、ザンメル凹版輪転機1台、凹版速刷機8台、断裁機など、一国の紙幣印刷工場並みの規模を誇る本格的な偽造工場であった。しかし、仔細に本物と偽造券を比較すると、明らかに偽造券であることが分かるような程度の出来栄であった。

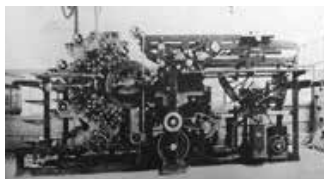
更に、ピン札では現地で疑われる可能性があるため、周辺の女学校の生徒を学徒動員して、お札を使用した状態に見せかけるため、紙幣を手で揉む作業も行ったようである。これらの偽造券は、陸軍の特殊作業員によって、中国本土にわたり、物資の購入などに使用された模様である。その後、香港が日本軍に占領されると、同地で印刷していた版面や用紙が日本軍の手にわたり、本物の銀行券が製造できるようになった。しかしながら、偽造券は10円券、5円券など低額券であったため、中国経済のインフレ高進によって、二千元、五千元



(図版) 偽造作戦の対象となった中国法幣、交通銀行券10円券（アメリカ・バンクノート社製）など



(図版) 登戸研究所の紙幣偽造の工場建物



(図版) 陸軍がドイツから購入・設置した地紋模様印刷用輪転機



(図版) 登戸研究所での陸軍偽造関連の軍人たち



(図版) 偽造紙幣製造担当だった山本陸軍主計大佐

など的高額券が相次いで発行されたため、あまり偽造作戦の効果が無くなり、結果的に中国「法幣」偽造作戦は失敗であったと言える。なお、登戸研究所の戦時中の活動は、現在では明治大学登戸校舎内に設置されている博物館に資料が展示されており、当時の偽造作戦の概要を閲覧することができる。

簡易な印刷方式であっても、偽造券が発生しなかった終戦前後

第2次世界大戦下では、資材の不足や製造能力の限界から、発行された政府紙幣や管理通貨制度下で発行された粗末な品質の銀行券が発行されたが、戦時体制下では殆ど偽造券は発生しなかったほか、更に占領軍GHQの管理下に置かれた終戦後でも、粗末な品質の銀行券であったにも係わらず、偽造券関連の報道は殆どなされなかった。

戦後発行のA券シリーズは、百円券を除き、いずれも簡易な凸版やオフセット印刷であったが、当時は偽造する側も、偽造を試みようとしても、材料の紙幣用紙や印刷機械類が入手できなかったと推測され、偽造券の発生は殆ど報道されることがなかった。



(図版) 粗末な印刷だった管理通貨制度下の銀行券

(図版) GHQ管理下で発行の粗末なA券

本格的な凹版印刷を用いた「B千円券」発行と「チー37号事件」

その後、戦前には顕著で大規模な偽造事件は発生しなかったが、戦後初めての本格的な凹版印刷であった昭和25年発行のB千円券を、凹版の技法を用いて偽造した「チー37号事件」が発生し、日本銀行、警察や印刷局関係者が驚いた。最初の偽造券の発見は、日本銀行秋田支店であり、昭和37年1月に市場から回収されたB千円券の中に、凹版印刷を用いた偽造千円券を係員が発見したのが最初であった。まさか凹版印刷を用いた銀行券が偽造されるとは、当時の関係者が驚いたのは当然であったであろう。その後、この偽造千円券は、主に東日本の各地域で発見されたが、新聞報道で偽造券の特徴が新聞報道で公表されると、すぐに犯人は偽造券の手直しを行い、印刷し直して行使するなど迅速に対応したため、推測では犯人は小型の製版や凹版機などの器具を持参した技術者と思われた。犯人が使用した偽造券は合計345枚であったが、37年7月段階でびたりと偽造券は行使されなくなり、結局犯人は逮捕されず事件は時効となった。報道された偽造券は、さほど精巧なものではなく、注意すれば偽造を識別できる程度の粗末なものであったが、通貨当局は凹版印刷の技術を使った犯人を追って、全国的な捜査を行ったものの、当時はまだ街路や商店には監視用カメラがなく、自販機などもない時代であったことや、犯人が各所で少ない枚数の偽造券を、高齢者が商売を行っている商店などを狙って行使したために、犯人逮捕に至らなかったと思われ、「愉快犯」であったという説も推測されていた。

しかし、ショックを受けた印刷局や日本銀行では、偽造防止面での抜本的な対策が検討され、当時使用していた戦前から継続使用の古い製版、印刷機械などに変えて、当時進んだ機械設備を採用していたヨーロッパの機械メーカーのものを本格的に活用する方針を決定した。そして、用紙製造から製版、インキ、印刷機械などを、抜本的に更新する方針を定め、外国製の高価なシムルタン地紋印刷機、ジオリの多色凹版印刷機など、当時欧米で採用されていた新しい印刷機械類を大量に導入するとともに、偽造のターゲットとなった「聖徳太子」の描か



(図版) 偽造の対象となった「B千円券」



(図版) 凹版印刷による偽造千円券



(図版) 真券と偽造券の比較
(画線の太さや織細さの相違状態)



(図版) 偽造券の記番号や凹版画線が凸版印刷のため、マージナル・ゾーンが観察される

れた「B 千円券」を、偽造の恐れのない優れた技術を駆使した「C 千円券」に早急に改刷するという方針を決定し、実行に移した。

新しい千円券への改刷に際しては、従来とは異なる新しい機械の性能を十分に活用できるようにするため、デザイン面でも従来とは異なる画期的な方式が採用された。人物肖像に関しては、初代総理大臣の伊藤博文と、日本の近代化に大きく貢献した初代紙幣頭であった渋沢栄一が、有力な候補として検討されたが、偽造防止の観点から、豊かな鬚を持ち個性豊かな表情をした伊藤博文が選定された。当時検討された渋沢栄一の肖像は、現行のF券に採用された70歳頃の肖像とは異なり、ご高齢の90歳前頃と思われるお写真を基に、肖像がデザインされたものであった。また、銀行券全体のデザインとしては、複雑な凹版による彩紋輪郭枠の模様を排除して、極めて開放的なデザインとした。ドイツ製の多色凹版ザンメル印刷機の機能を生かした「2色ザンメル印刷」方式を採用して輪郭枠のない図柄とし、また券面左部分に空白エリアを設けて、伊藤博文の「肖像の白黒透かし」がはっきりと認識できるようなデザインを採用したのであった。また新しい新鋭の多色ドライ・オフセット方式のシムルタン印刷機の特徴を生かした複雑で入り組んだ「シムルタン模様」を導入するなど、従来とは全く異なる画期的な印刷方式を採用したのであった。



(図版) 新規に採用されたドライ・オフセット多色印刷用の「シムルタン」印刷機



(図版) 「ジオリ」多色凹版ザンメル印刷機



(図版) ドイツ製の番号印刷機「ヌメロータ」



(図版) 新たに採用された輪郭枠のない C 千円券の表面と裏



(図版) 表面左端部分の肖像の透かし



(図版) 表面の緻密な多色シムルタン地模様印刷



(図版) 2色ザンメル印刷の菊花と枝の模様



(図版) 偽造しにくい「豊かな鬚」が特徴の伊藤博文の肖像を採用

オフセット多色印刷機による大量印刷の偽造券「利-18号事件」

この事件は、昭和56年に発生した偽造事件で、昭和32年に発行された聖徳太子の肖像を描いたC五千円券の大量偽造事件である。この事件の発見の発端は、尼崎市の競輪場で支払われた銀行券の中に、偽造券があることが発見され、捜査が開始された。やがて九州・大分市のごみ捨て場に、刷り損ないのC5千円券がぎっしりと詰まった34個もの大型の麻袋が発見され、大分市の民間の報栄社という印刷会社の社員が逮捕された事件である。犯人は、市販の多色オフセット輪転印刷機を使って偽造を行ったが、当然ながら多色印刷された五千円券の刷色の刷り合わせがうまく行かず、大型のごみ入れ袋34個分もの大量の損紙を出して、ゴミ捨て場に廃棄したため、すぐに逮捕される結果となった。印刷したニセ札は、約8万枚であったが、実際に使用したのは僅か48枚であった。銀行券に使われている印刷方式は、多色オフセット地模様印刷や、凹版印刷の代わりに、オフセット印刷による一見するとインキが盛り上がった凹版印刷のように見える画線構成であり、それを市販のオフセット印刷機を使って精緻な刷り合わせによる偽造券を作ることは、本来極めて難しいことであり、極めて数多くの損紙を発生させ、また完成品も、すぐに偽札と識別される出来栄で、大量の損紙を生み出し、犯人逮捕のきっかけとなったとも言える。



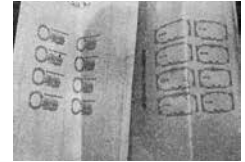
(図版) C 五千円券



(図版) 偽造に使われた
オフセット印刷機



(図版) 発見された袋に
詰まった C 五千円券の
刷り損ないシート



(図版) 犯人が作成した
8面シートの偽札の半製品

このオフセット多色印刷による「利-18号事件」の発生に伴い、更に偽造券の発生することを防ぐ目的も兼ねて、新たに D 券シリーズとして、昭和59年11月に福沢諭吉、新渡戸稲造、夏目漱石の肖像を採用した新しい銀行券が発行されることとなった。

新しい偽造防止対策を採用した D 券 3 券種の発行

昭和 59 年 11 月には、従来のような政治家の肖像を使用した銀行券に対する世論の不満もあり、更に世界各国では文化人の肖像を採用する事例が増加したことや、素人によるニセ札作りが横行したこともあり、偽造防止効果を一層高めるため、D 券 3 券種が発行されることとなった。1 万円券には明治期の文化人として名高い福沢諭吉の肖像を、また千円券には著名な小説家の夏目漱石の肖像を採用することとなった。5 千円券には、当初は女性肖像として、与謝野晶子または樋口一葉を採用する予定であったが、様々な理由で女性の肖像採用をあきらめ、その代わりに女性教育に貢献し、国際的に活躍した新渡戸稲造が選定されたのであった。



(図版) 当時としては画的だった D1 万円券と D5 千円券



(図版) ミニ改刷された D1 万円券



(図版) 画的だった透かしを用いた識別マーク



(図版) 肖像拡大と肖像部分の細画線



(図版) 唐草部分のザンメル凹版インキ印刷



(図版) 多色シムルタン地模様を採用

D 券シリーズの特徴としては、各券種の中央部分に白黒透かしによる人物肖像を漉入れるとともに、当時世界的に普及し始めた視力障害者が券種を容易に識別できるように、「透かしの技法を用いた識別マーク」を採用したこと、裏面には日本の固有の鳥類を描いたことのほか、C 券シリーズでも採用された凹版2色ザンメル印刷、精緻なシムルタン模様を採用したことである。まだ D 券発行当時は、今日のような高性能なカラー・コピー機や、駅などの自動販売機等は普及していなかったため、基本的な偽造防止対策としては、用紙面、印刷面ともに概ね従来の技法を踏襲したものであった。

しかし、平成時代に入ると、カラー複写機が職場だけではなく一般家庭などにも普及し、しかも性能が従来のものに比べて顕著に向上したため、容易に銀行券が複製される恐れが増大したこと、自動販売機や券売機が普及したものの、まだ当時は識別機能が弱いこれらの機械類を利用して、偽札を行使するという犯罪が増加し、人間だけではなく、特に機械類を騙すという新しい偽造券が登場してきたのであった。その要因の一つとして、マニア向けの通信機器の雑誌などで、自動販売機の紙幣識別装置の構造等を入念に紹介されたため、紙幣の偽造変造を招くような事態となったとも言われている。当時使用された一部の自販機などでは、磁気テープを貼付した白紙や、白黒コピーした図柄という極めて安易な偽造券であっても、磁性凹版インキ部分だけを識別して、機械が本物の銀行券と認識してしまう粗末な事例も、数多く発生したのであった。



(図版) マニア向け雑誌で紹介されたD券の磁性インキの記事



(図版) 磁性インキの製造法など

そのため、本来はもっと優れた機械検知に対応した銀行券を早急に製造発行すべきであるが、大量に流通している銀行券を短時間で改刷することは難しいため、暫定的な措置として、券面に「NIPPON GINKO」の連続凹版マイクロ文字を加刷し、また表の総裁印の部分に紫外線発光インキを採用するなど、簡易な暫定的「ミニ改刷券」を発行して当面の事態に対応することとなり、その間に新たな偽造防止対策を採用したE券シリーズ券を準備し、僅か3年間という短い期間で新規に製造、発行することとなった。



(図版) 当初の図柄部分と、ミニ改刷券で採用された連続凹版マイクロ文字「NIPPON GINKO」部分



(図版) 当初の表面・総裁印章と、紫外線発光インキを用いて印刷した改刷券の「総裁之印」

平成12年7月発行のD2千円券では、画期的な偽造防止対策を採用

平成12年には、沖縄においてG8の国際会議が開催されるのを機会に、戦後初めての「2」の単位が付く「D2000円券」が発行された。このD2千円券では、表面に沖縄県の「守礼門」が描かれ、裏面には「源氏物語絵巻」の図柄が採用されたが、最も大切なことは、その当時の大蔵省印刷局において開発された様々な新しい偽造防止対策が、数多く採用された「新技術の結晶」のような銀行券であったのだ。印刷面では、初めて潜像凹版模様、パールインキや OVI (光学的変化インキ) インキ印刷の採用、国際的なコピー防止対策であるユーリオン・マークの採用、凹版識別マーク、凹版マイクロ文字、紫外線 UV 発光インキでの印刷、特殊潜像模様、赤外線 IR 発光インキでの印刷など、従来の銀行券には見られなかった新しい偽造防止対策が数多く採用されており、これらの技術は、現在のF券にも数多く継続採用されているものでもある。



(図版) D2千円券の表面と裏面



(図版) 初めて採用のユーリオン・マーク



(図版) OVI インキでの印刷



(図版) 潜像凹版模様



(図版) 特殊潜像模様



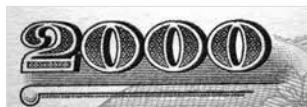
(図版) パールインキ印刷



(図版) 紫外線発光インキ印刷



(図版) 凹版画線のように見える連続凹版マイクロ文字

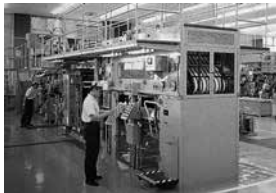


(図版) 守礼門の白黒透かし



(図版) 赤外線反射吸収インキ印刷を用いた潜像凹版印刷部分

これらの新技術が採用された理由は、既に様々な技術開発が行われていたほか、基本となる銀行券製造機械類の大きな進歩が根底に存在していた。即ち、外国製の銀行券に変えて、国産の印刷機や仕上機などが画期的な進歩を遂げたことが、新技術導入の要因でもあった。従来の銀行券は、ドライオフセット・ザンメル凹版印刷機が主体であったが、より高性能、高能率の印刷機として開発されたダブル・オフセット・ザンメル凹版印刷機が稼働したこと、更に印刷した銀行券の仕上げ加工などの新機械類も、これに貢献したと言えよう。新しく導入された機械は、効率よく精緻な印刷が可能であるほか、短時間で紫外線発光インキを乾燥させる装置も備えたものであった。また、印刷された銀行券の検査仕上げ機や、新たに券面にホログラム箔を貼付する装置も導入するなど、様々な品質向上を成し遂げる機能を持った技術革新性豊かな機械設備類であった。



(図版) 従来の主力機であった
ドライオフセット・ザンメル凹版印刷機



(図版) 新しい
ダブル・オフセット・ザンメル凹版印刷機



(図版) 自動検査・仕上げ機

急ピッチで製造された E 券シリーズの 3 券種行

暫定的なミニ改刷券では、偽造券を排除することは困難であるため、急ピッチで E 券 3 券種の製造が開始された。特に凹版肖像の彫刻には、熟練した凹版彫刻官でも時間がかかるため、流通枚数が全体の約 60%、枚数では 70 億枚という一万円券については、新しく肖像人物を選定し、入念な凹版彫刻を行い、製版印刷の準備を行うとなると時間がかかるため、製造枚数の多い一万円券に関しては、表面の「福沢諭吉」の肖像は、基本的には継続使用することとなり、製造枚数が少ない五千円券には戦後初めての女性肖像として、樋口一葉の肖像を、千円券には医学研究者の野口英世の肖像が採用された。この時期になると、自販機などの機械類と、人間とが共に銀行券を使用するという時代となったため、自販機や券売機、コンピュータやカラー複写機など、銀行券を使用する機械に関しては、それまでの機械検知機能を一層強化して、真券と偽造券を容易に識別できるように、様々な工夫が採用されたのであった。新券の表面は全く新しい図柄や技術が採用された半面、裏面に関しては時間的な制約から、比較的变化がなく、簡易な図柄が採用された。



(図版) E 券 3 券種の表面



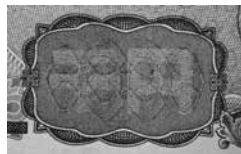
(図版) E 五千円券のホログラム箔



(図版) E 千円券の潜像凹版模様



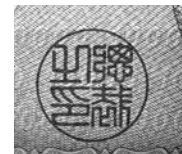
(図版) ホログラム箔



(図版) 千円券の潜像凹版模様



(図版) 透過光線下で観察した
E1 万円券の棒状の識別白透かし



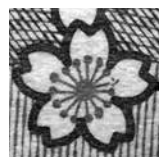
(図版) 地味だが効果的な
偽造防止対策のレリーフ模様



(図版) カラフルな
紫外線発光模様



(図版) 裏面の
特殊潜像模様



(図版) 裏面の
隠しマイクロ文字



(図版) 紫外線発光状態

新しい偽造防止対策としては、D 2千円券に採用されたものが多く継続採用され、用紙面では中央部分に人物肖像の白黒透かしが従来にも増してシャープに漉き入れられ、更に券種を機械的に識別できる「棒状の白透かし」を採用、表面左右端部分には、意図的に偽造できないようにするため、淡いピンク色のパールインキを採用した。また印刷面では国際的に採用が進む「ユーリオン・マーク」を、かなり多く券面に印刷して、カラーコピー機による複写防止対策を強化したほか、人間の目には見えない磁性インキや紫外線や赤外線反射・吸収インキの採用、潜像凹版模様、高額券では表面左下隅部分にホログラム箔の貼付、裏面には特殊潜像模様を採用するなど、様々な偽造防止対策を多く採用したのであった。そのほか、地模様には特殊なレリーフ模様、凹版マイクロ文字やレンティキュラー模様なども採用した。一方、自販機、カラー複写機などの紙幣を識別する装置に関しても、従来に比べて多くの真偽識別装置が装備されたことが特記される。更に、一般国民に対して新しいE券の真偽識別方法などを広くPRし、新券の特徴を分かりやすく周知したのであった。

その結果、精巧な偽造券は殆ど発生せず、特にE券に関しては、我々が容易に識別できるような粗末な偽札はあまり多くはないが発生したものの、全体的には日本は世界的にも評価の高い、極めて偽造の少ない優れた銀行券となったのである。

E 券製造のための新鋭印刷機の導入等と、抜本的な偽造防止対策向上

一方、印刷機械設備に関しては、抜本的な偽造防止対策向上と生産能力向上のために、紫外線発光インキを即時に乾燥させる装置を備えた新型のダブるオフセット・ザンメル凹版印刷機が開発され、更にホログラム箔貼付の装置や、特殊潜像模様を作成する装置、更に番号印刷と印刷状態を検査を行う新型の番号印刷や仕上げ機の導入など、様々な新機械や新技術が導入された結果、E券の偽造は極めて難しくなった。その結果、偽造券の発見枚数は激減し、仮に偽造券が発生しても、すぐに偽造券であることが検知できるようになり、E券は世界一安全な銀行券シリーズとなったのである。

世界に例を見ない新しい偽造防止技術を採用した「F 券シリーズ」

このような優れたE券シリーズであるが、将来における新技術の発達により、新たな偽造券の発生が危惧されたためか、更に優れた偽造対策を完備したF券シリーズの製造発行計画が促進された。そして令和6年7月には、更に進んだ偽造防止対策を完備するとともに、外国人にとっても日本円の券種別識別が容易になり、安心して銀行券が使用できるようにするグローバル化に配慮したF券3券種が発行された。

新F券では、用紙面の偽造防止対策として、画期的な「高精細白黒透かし」を開発し、それを採用したもので、世界的にも最高水準の偽造防止対策を成就したのであった。ホログラムに関しても、世界で初めての3Dホログラム箔を貼付したほか、潜像凹版模様も一層改良され、視力障害者だけではなく、一般人も凹版識別マークも容易に券種が識別できるよう、券種によってその配置場所を変え、しかも指感性が顕著に向上した。

従来から採用してきたマイクロ凹版文字印刷も、従来とは異なり、表裏の図柄中に隠されたものとなり、偽造防止効果が一層強化されるようになった。そのほか、券種別に異なる白透かしによる棒状のマーク、ユーリ



(図版) F 券 3 券種の図柄



(図版) 高精細の白黒透かし



(図版) 画期的な 3D ホログラム箔



(図版) 随所に隠された凹版マイクロ文字

(図版) 特殊潜像凹版模様

(図版) 紫外線発光インキ印刷

オン・マーク、特殊潜像模様などは、そのまま踏襲された。また、最近のコンビニなどでの取引では、店員は殆ど銀行券には触れずに、自販機などの機械が銀行券の真偽を即時に判別できるように高性能化しており、真偽のほどは不明だが、一般には公開されていない新しい機械検知用の工夫なども、偽造防止対策としてF券には採用されているという説も聞かれる。

一方、コンピュータ装置やカラーコピー機でも、銀行券の複写ができないよう、様々な複写防止機能が強化されているのが実態である。F券発行直後に、偽造券が発見されて、犯人が逮捕されたという新聞記事が公表されたが、犯人の使用したカラー複写機は、昔の古いタイプであり、偽造券には精緻な透かしもなく、容易に店員が偽造券であることを感知し、設置されている監視カメラ装置の効果もあって、すぐに犯人逮捕となった模様である。

新F券シリーズは、年間約30億枚が製造されているが、銀行などの自動預金払い出し器などでは、まだ状態の良い旧E券も、F券と並行して払い出しており、まだ並行流通状態となっている。日本は従来からキャッシュレスがあまり進展しない現金決済の国と言われてきたが、最近では取引の約40%が電子的な決済となっており、最近急速にキャッシュレスが進行しているとみられる。しかし、災害多発国日本では、大規模な地震や津波などの発生時には、長期間にわたり停電も予測されることから、手元に銀行券などの現金を保有するという習慣や文化は、あまり変わらないとみられる。特に高齢化社会では、キャッシュレスに慣れていない高齢者が多いため、即時決済完了性、匿名性、安全性に優れ、一方では決済手数料の不要な銀行券のメリットは大きく、「格差のない支払い手段」として今後も銀行券の需要は変わらないとみられる。

特に最近のスーパーやコンビニなどの商店、電子決済に伴う手数料負担に耐えられない小規模商店や、診療機関などでは、銀行券はコストのかからない大切に、格差のない支払い手段として、今後もその地位は変わらないと思われる。

偽造事件が極めて少ない日本でF券を発行する必要があるのかという意見もあるが、技術の進歩は絶え間なく、万一将来において精巧な偽造券が発生した場合には、早急に対応することができない恐れがあるため、事前の将来の技術開発を予測してあらかじめ新銀行券発行を決断したものと推定される。

最近では世界各国でも、銀行券の使用を推奨する例が多く、ユーロ銀行券のデザイン改造に伴い新技術が採用されると推定されるほか、アメリカなど各国でも新銀行券発行の話題が出ているのが現実である。

偽造券に対抗するためには、一般市場で入手できる材料や、使用されている印刷技術などを、常に上回るような先進的な技法や新技術を銀行券に取り込まなければならぬ。そのため、お札の製造を担当する各国の民間の紙幣印刷所では、常に市場の動向を先取りするような新技術の開発と、その技術のお札へ応用を心がけてきた。その動きは、今後も変わらず、常に新しい偽造防止技術が世界中で登場してきている。

(筆者は元一般財団法人・印刷朝陽会理事 紙幣研究者・植村 峻)

参考文献

- | | |
|-----------|---|
| 植村 峻 | 「紙幣肖像の近現代史」 吉川弘文館 2015年
「贋札の世界史」 角川ソフィア文庫 令和2年
「日本紙幣の肖像やデザインの謎」 日本貨幣商協同組合 2019年 |
| 中田 祐夫 | 「にせ札」 講談社 1978年 |
| 読売新聞西部社会部 | 「5000円札偽造事件」 読売新聞社 昭和58年 |
| 横地 真一 | 「太政類典・治罪真利」「続似せ札」「続々にせ札」 自費出版 平成24年 |
| 村岡 伸久 | 「偽札百科」 国書刊行会 2010年 |
| 大蔵省印刷局 | 「矢野道也伝記並論文集」 大蔵省印刷局 昭和31年 |
| 山本 憲蔵 | 「陸軍贋幣作戦」 現代史出版会 1984年 |
| 海野福壽ほか | 「陸軍登戸研究所」 青木書店 2003年 |
| 中國人民銀行 | 「中国歴代貨幣」 新貨出版社 |
| 三好 徹 | 「歴史への招待・ゲルマン札偽造」 日本放送協会 昭和55年 |
| ラジオライフ | 「検証偽造 & 変造」「続発する偽造事件を徹底調査」 三オブックス 1993年 |

第37回東京国際コイン・コンヴェンション即売品の一部



旧 20 円金貨 明治 3 年
PCGS MS64
価格お問い合わせ



試鑄貨 一厘銅貨 明治 3 年
(旭日線入・稀少)
NGC MS62RB
165 万円



天保五兩判金
極美品 圓
235 万円



慶長小判金 前期 無刻印
極美品- 未使用 圓
275 万円



宝永小判金
極美品 圓
175 万円

オンラインショップ 毎月 20 日更新

<https://sekiguchicoin.com>



ブース No.
H7~10



日本の古銭・世界のアンティークコイン セキグチ
SEKIGUCHI
ANTIQUE COINS

〒371-0033 群馬県前橋市国領町 2-1-8 TEL: 027-232-5789

第37回東京国際コイン・コンヴェンション



①貿易銀 明治 9 年 PCGS MS65PL 未未
850 万円



②現行 5 円黄銅貨 昭和 24 年
穴ナシエラー PCGS XF40 180 万円



③現行 5 円黄銅貨 ゴシック年号不明
ダルマ打ちエラー PCGS MS61 150 万円



④和気 2 次 10 円札 福耳エラー 美品 180,000 円



⑤議事堂 10 円札 福耳エラー 美品 120,000 円

- ⑥旧 20 円金貨 明治 3 年 PCGS UNC-Cleaned 1,050 万円
- ⑦財務 新 20 円金貨 大正元年 極美品 980,000 円
- ⑧財務 新 20 円金貨 大正 3 年 極美品 930,000 円
- ⑨財務 新 20 円金貨 大正 8 年 極美品 860,000 円
- ⑩旧 5 円金貨 明治 30 年 PCGS UNC-Cleaned 300 万円

ブース No.
A9・10

テレホンカード鑑定買取いたします / 中野ブロードウェイ 1 階にて 30 年

カードショップ トレジャー



〒164-0001 東京都中野区中野 5-52-15 ブロードウェイ 1 階
JR 中央線中野駅北口から徒歩 5 分 TEL 03-3389-2222 水曜定休

<https://www.teleca.net/>

第37回東京国際コイン・コンヴェンション



①元禄大判金 元書 茂七九 圖



②慶長一分金片本 圖 45万円



③文禄通宝銀銭 圖 280万円



④永楽通宝金銭 大桐 圖 680万円



⑤永楽通宝銀銭 番銭 六 圖 88万円



⑥寛永通宝 逆ト 母銭 圖 135万円



⑪世界最大の紙幣
大明通行宝鈔壹貫文
95万円



⑩昭和53年50円 穴なしエラー
PCGS MS65 300万円



⑦改三分定銀 PCGS AU-D
180万円



⑧貿易銀 明治9年 PCGS MS62PL
250万円



⑨イギリス ゴシッククラウン 銀貨
UNDECIMO 1847年 PCGS PR62
370万円

ブース No.
K8~10

(株)野崎コイン

<https://www.nozakicoin.jp/>



〒164-0001 東京都中野区中野 5-52-15 ブロードウェイセンター 2階 TEL03-3389-5958/FAX03-3389-5959

世界のコインで社会貢献



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字社コーナーで世界のコインを配布します

東京国際コイン・コンヴェンション会場の日本赤十字社コーナーにおいて日本貨幣商協同組合の協力のもと海外旅行者など、様々な皆様から善意の寄付として寄せられた世界のコインをパッケージにして、会場を訪れた皆様に配布し、ご寄付を募ります。

集められた寄付金は全額、人間のいのちと健康を守る赤十字活動に役立てられます。

コインコレクターのあなたも是非、このコインを通じたチャリティー活動にご参加、ご協力ください。

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

日本貨幣協会

会長 小川 隆司 「貨幣」研究・収集の楽しみ

—入会のご案内— 会誌「貨幣」を定期的に刊行。年6回。
年会費¥5,000で会員資格が得られます。

「日本貨幣協会」入会の申し込み先及び問い合わせ先

〒243-0413 神奈川県海老名市国分寺台1-15-14
事務局 吉田 守 TEL 090-7839-4437



例会々場

毎月第2日曜日午後1時に開催
東京都新宿区新宿5-17-3
花園神社内・花園会館(社務所)
☎(03)3209-5265



See us at Tokyo International Coin Convention 5.1-3

2026.11.29 Champion Macau 30th Anniversary Auction

With Zero Buyer's Commission

Consignment Deadline: 2026.9.15

- Hong Kong and Singapore Specimen Notes from the Chinese Family Collection
- Szechuan Malan Horse Token from the NC Collection
- Soviet Coins from the J.C. Lee Collection
- Chinese Dragon Silver Coin City Cards

www.cghka.cn

www.youtube.com/@championghka



2026.11.27-28 The 2nd Macau International Coin Convention



Showbook Advertisement Deadline: 2026.11.1

Tel: 853-68666901

Wechat: GN79991

Email: yvan799@outlook.com

Address: Sofitel Macau at Ponte 16

Link: www.facebook.com/share/p/1A7ecLWph/

CHAMPION AUCTION
冠軍拍賣公司

Champion Macau Office

AV. DR. Rodrigo Rodrigues. 600E-P105 First International Com. Center, Macau
Tel: 886-903937338
Email: championghka@gmail.com
Email: yvan799@outlook.com

Champion Hong Kong Store

Rm. 219, 2/F Ho Mongkok Shopping Centre, No.169-173 Portland St. Mongkon Kowloon, Hong Kong
Tel: 852-61650618
Email: championghka@gmail.com

Champion Taipei Store

163 Nan King West Road, 1/F, Rm. 50
Tel: 886-903937338
Email: championghka@gmail.com

HKCS
香港國際錢幣聯合展銷會
THE HONG KONG COIN SHOW (HKCS) EST. 2016

Grow Your Brand With Us
全方位拓展你的業務



April 10 - 12, 2026
2026年4月10-12日

尖沙咀美麗華酒店18樓
18/F, The Mira Hong Kong, TST

The 14th Hong Kong Coin Show
第十四屆香港國際錢幣聯合展銷會

"One World, Many Collections, Infinite Stories"
「一個世界，萬千藏品，無數故事」

2026 Chinese Dragon Silver Bullion Coins
2026版中國龍銀質紀念幣
Coming Soon 即將推出



Event details will be announced soon.
Please stay tuned for more information



亞洲頂尖錢幣及紙鈔收藏盛會
Best Numismatic Event in Asia

逾 100+ 頂級錢幣展商來自超過40個地區參展
More than 100+ Top notch exhibitors from more than 40+ regions

專營硬幣及紙幣市場
國際媒體報道
Specialized in Coins and Banknotes Market International Media Coverage

Premium Sponsors 頂級贊助商:



Deluxe Sponsors 尊貴贊助商:



Jointly organized by 聯合舉辦:



WhatsApp
+852 9217 7743

Website
www.hongkongcoinshow.com

Wechat
hongkongcoinshow

SOVEREIGN RARITIES LTD

最高級のコインを扱ってきた100年以上の経験を結集

東京国際コイン・コンヴェンション



William and Mary 1692 Five-Guineas,
MS61, edge QVARTO



Oliver Cromwell 1656 Pattern Gold
Broad of 50-Shillings, PR62 CAM



Charles III 2026 Gold PF70 UC FDI £5
QEII Second Effigy



Charles III 2026 Gold PF70 UC FDI £5
QEII Third Effigy

17-19 MADDOX STREET, LONDON, W1S 2QH

INFO@SOVR.CO.UK TEL: +44 (0)20 3019 1185

WWW.SOVR.CO.UK



ワールド&古代コイン

プラチナセッション&シグネチャーオークション

HKINF - 香港 | 6月17~19日

「The Peh Family (白家) コレクション・パート5」注目コイン



中国: 宣統三年 (1911年) 大清銀幣 壹圓試鑄銀貨
「短鬚龍」 PCGS SP64+
鴻禧美術館旧蔵



中国: 宣統三年 (1911年) 大清銀幣 壹圓試鑄銀貨
「長鬚龍」 PCGS SP63



中国: 光緒三十三年 (1907年) 北洋造 光緒元寶
北洋一兩銀貨 PCGS MS62



中国: 1912年 中華民国開国記念幣 孫文
壹圓 試鑄金貨「下五角星」 PCGS SP62



中国: 民国三年 (1914年) 中華民国 袁世凱
壹圓 試鑄銀貨「L. Giorgi」 PCGS SP63



中国: 民国十年 (1921年) 中華民国 徐世昌
「仁壽同登」壹圓 試鑄金貨 PCGS SP63+


オークション出品は随時承っております。
お問い合わせ先: ヘリテージ・オークションズ・ジャパン株式会社
マネージング・ディレクター | 松本 麻生
03-6257-1131 | MaiM@HA.com | HA.com/Japan

DALLAS | NEW YORK | BEVERLY HILLS | CHICAGO | PALM BEACH
LONDON | HONG KONG | MUNICH | TOKYO | PARIS | AMSTERDAM | BRUSSELS | GENEVA

常時50以上のカテゴリーで出品を受け付けております
出品代金の前払いも可能
オンライン入札会員200万人以上

HERITAGE
AUCTIONS
THE WORLD'S LARGEST
NUMISMATIC AUCTIONEER

*Images Not To Scale
BP 22%, see HA.com 93691


 FOUNDED 1666
SPINK
 WHERE HISTORY IS VALUED

◆
 2026年 株券・債券・紙幣・硬貨
 オークションオークションのスケジュール
**HONG KONG 2026
 NUMISMATIC AUCTION
 SCHEDULE**

8-9 April	4月8-9日
July/August	7月/8月
7-8 October	10月7-8日

◆
 ロンドン・香港・ニューヨーク |
 年間を通してご出品収集しております
 Regular auctions in London, Hong Kong
 and New York, with consignments
 accepted all year round.

◆
 当社は高品質のアイテムに前払いサービスを提供できます・お問い合わせください
 Cash advances available for good consignments



SPINKにもっと注目し
て下さい。その他のオ
クション情報もすべてご
ざいます

公式WECHAT番号
Spink-auctions

-  #SPINK_AUCTIONS
-  @SPINKAUCTIONS
-  @SPINKANDSON

Spink China | 4/F & 5/F 111 Queen's Road West | Hong Kong
 Tel: +852 3952 3000 Fax: +852 3952 3038
 Whatsapp: +852 5121 9179 | Email: china@spink.com
 www.spink.com

SCAN ME



アプリ

SCAN ME



サイト

Stack's & Bowers
AND PONTERIO

あなたのコレクションを世界へ！
香港・アメリカ・ヨーロッパオークション委託受付中



JAPAN. TRADE DOLLAR, YEAR 9 (1876).
OSAKA MINT. MUTSUHITO (MEIJI).
PCGS MS-65.



CHINA. SILVER "LONG WHISKER
DRAGON" DOLLAR PATTERN, YEAR 3
(1911). PCGS SPECIMEN-64 GOLD SHIELD.



CHINA. KWEICHOW. "BAMBOO" SQUARE
WINDOW DOLLAR, YEAR 38 (1949).
PCGS XF 45.



GREAT BRITAIN. GOLD 1000 POUNDS
(KILO), 2013. LLANTRISANT MINT.
ELIZABETH II.



JAPAN. OBAN (10 RYO), ND (CA. 1860-62).
KYOTO MINT. MAN'EN ERA. PCGS MS-63.



FRANCE. GOLD 5000 EUROS (KILO), 2019.
PARIS MINT. SUPERB GEM PROOF.
SERIAL NUMBER 8. MINTAGE 19 ONLY.



JAPAN. NEW ORIENTAL BANK
CORPORATION LIMITED. 1 DOLLAR
YOKOHAMA. 1.3.1886. PMG VERY FINE 20.



JAPAN. HONG KONG & SHANGHAI
BANKING CORPORATION. 25 DOLLARS.
YOKOHAMA. ND (CA. 1870). SPECIMEN.
PMG CHOICE UNCIRCULATED 64.



JAPAN. GREAT IMPERIAL NATIONAL
BANK. 2 YEN, ND (1873).
PMG VERY FINE 25.

国際的な注目・専門家のサポート・最高の結果を目指す

オークションのスケジュールや展示会の詳細については、お問い合わせください。(日本語対応可)

Unit 2202-03, 22/F Mira Place Tower A, No. 132 Nathan Rd., Tsim Sha Tsui, Kowloon, HK | www.StacksBowers.com |
+852.2117.1191 香港 | InfoHK@StacksBowers.com

TICC特別価格のご案内

2500 円

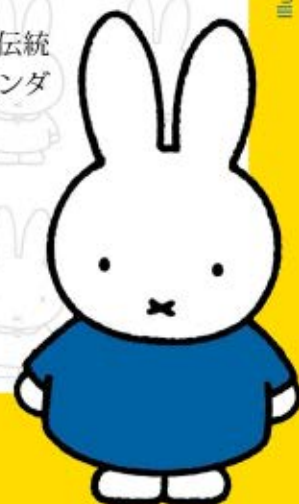


限定1250枚のみ!

精密さ、職人技、そして長年にわたる卓越したコイン鋳造の伝統で世界的に知られているロイヤル・ダッチ・ミント(王立オランダ造幣局)が鋳造する最高品質のコインをぜひご覧ください。



www.royaldutchmint.com



Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953 - 2026

SINCE 1567  Royal Dutch Mint



Eur-Seree Collecting Co., Ltd.
BANGKOK AUCTION HOUSE

AUCTION - BUY - SELL - PRIVATE TREATY
Stamps - Coins - Banknotes - Documents - Arts - Antiques



1941 ~ 1944年、軍事郵便所の郵便印(カタカナ文字)のあるはがきや
日本、タイ郵便の切手付き封筒などのタイ国内の郵便物を買取しています。

**タイ国内最大の収集グッズ入札情報サービスの株式会社
ウアセリーオークション (タイ王国) 買取・販売・入札・高額査定**



Rare Asian materials

Auction at least 3 times annually

World records and high prices regularly achieved

Call for FREE Appraisals & Consultations

All deals will be treated as "STRICTLY CONFIDENTIAL"

"Put the trust on the professionals, we will put more value in your collections"

"วางใจในมืออาชีพเท่านั้นที่จะทำให้คอลเลกชันของท่านมีค่ามากกว่าที่ท่านคิด"

Ask for free sample catalogue of next sale

EUR-SEREE COLLECTING CO., LTD.
1256/8 NAKORNCHAISRI ROAD,
DUSIT, BANGKOK 10300
THAILAND



ID: eurseree

Tel: +66 2 243-1789, Fax: +66 2 243-4764 or +66 2 669-2043
e-mail: auction@eurseree.com website: www.eurseree.com

บจก.เอื้อเสรี คอลเลคติ้ง
1256/8 ถนนนครไชยศรี
เขตดุสิต กทม 10300

Visit us
TICC 2026
บูธ
No.K4

THE IMPERIAL COLLECTION

SUMMER AUCTION SALES

22-26 JUNE 2026 IN OSNABRÜCK, GERMANY



Russia. Tsar Nikolaus I., 1 ½ Rouble (10 Zlotych) 1835, St. Petersburg.
The rarest of the Family Roubles. Of the highest rarity only 36 pieces struck.
Beautiful patina, prooflike uncirculated.



0,9:1



South Africa. Pound 1874.
The famous Burgers Pound.
Very rare. AU-UNC.

German States. Prussia.
Friedrich Wilhelm IV.
Goldmedal in the weight of
50 Ducats 1855 by F.W. Kullrich.
600 year jubilee of the
city of Königsberg. Very rare
and impressive goldmedal.
Almost UNC.



37th TOKYO
INTERNATIONAL
COIN CONVENTION
May 1-3, 2026

SEE SOME
HIGHLIGHTS
AT THE SHOW



Fabian Halbich
fabian.halbich@kuenker.de
Call +49 541 96202 0
www.kuenker.com

Consign now to our upcoming Auction Sales

Have you inherited a collection and wish to sell your coins? We would be happy to provide information about consigning your coins to one of our auctions.

We uphold the highest standard of research and presentation in our catalogues. You may rest assured that your material will be showcased in a professional and attractive format to thousands of customers throughout the world.

The Künker Guarantee: When you purchase a coin, medal, medal of honor or other item, you can be sure: all the pieces correspond to their description, and we guarantee the authenticity without a time limitation!

Fritz Rudolf Künker GmbH & Co. KG
Nobbenburger Straße 4a · 49076 Osnabrück, Germany
Tel.: +49 541 96202 0 · Fax: +49 541 96202 22
service@kuenker.de

Numismatica Ars Classica NAC AG

David Guest Numismatics と提携

コインオークション



トラベラー コレクション

大英帝国コイン 第二部

ミルドクラウン銀貨:
過去数十年において最も重要なラインアップ

NAC
Numismatica Ars Classica NAC AG
LONDON - ZÜRICH - MILAN - CHICAGO

スイス・チューリッヒにてオークション開催
2026年5月26日～28日

どのヴィクトリアがお好みタイプ？

当社ブースで展示中！

古代から現代まで、コインの歴史 2700 年・・・

私たちは資産としてのレア・コイン、クラシック・コインのコンシェルジュ！



イギリス 5 ポンド 1839 年 プレーンエッジ W&R-277 "R6"

普通 (レタードエッジ, 文字縁) のウナライオンとの違いがおわかりですか？商品ともプレーンエッジで現存 5 ~ 6 枚のウナライオンの "女王" 様ですが、問題はそこではありません。右側の "W&R-280" は "ありふれた" 品と比べ、肖像面は若干異なるタイプですが、ウナライオンのデザインは通常の品と同じです。それでは左側の W&R-277 は？詳細は当社までお尋ねください……



イギリス 5 ポンド 1839 年 プレーンエッジ W&R-280 "R7"



イギリス 1837 年 W&R-295 "R5"



1879 年 W&R-322 "R7"

1837 年 6 月 20 日、ヴィクトリアはハノーヴァー朝第 5 代として 18 歳で即位した。戴冠式は 1 年後に催されたが、1837 年銘は 4 種のソブレン金貨と 2 種のグロート銀貨のブルーフ貨のみが存在する。全て W. ファイオンによる試作貨で現存 5 枚前後のウルトラレア。右の品は 1874 年に本国での製造が終了したシールドタイプの 1879 年銘で、メルボルン国際博用に特別製作された品と思われる。民間で入手可能な唯一品といわれる幻の名品。



オーストラリア 1853 年 シドニー type1



1856 年 シドニー type2

1851 年にゴールドラッシュが発生したオーストラリアでは 1853 年に表・J. ファイオン、裏・L.C. ファイオンによる新タイプ金貨がロイヤルミントで試作され、通常貨はシドニーミントで 1855、56 年の 2 年間で製造された。本品は現存 3 点といわれ、民間で入手できる唯一品。他の 2 点はロイヤルミントと大英博物館の所有に帰する。右の品も L.C. ファイオンによりロイヤルミントで試作され、通常貨は 1857~70 年にシドニーで製造された。1856 年銘もその現存数は最大 3 枚とされる超々稀品。



カナダ、ニューファウンドランド
50 セント 1870 年 ブルーフ
ブルーフは現存数枚の逸品



香港
50 セント 1868 年 ブルーフ
この年号の現存数は民間では
2 枚のみ！



香港 試作 1 ドル 1863 年 "香港一仙"
開局に先がけてロイヤルミントで製造された
この試作貨は漢字を採用した最初の西洋銀貨。
ゴシックタイプは現存 5 枚以下と考えられている。



イギリス 試作クラウン 1888 年
ESC-357A (Bull-2670 "R7")
L.C. ファイオンによるヴェールヘッドタイプ！
本タイプはトータルで現存 4-5 枚と
言われるが、"LCW" のサインがない本
バラエティは唯一品として伝わる。
空前絶後品！

The Rare Coin Specialist

BUY&SELL ~ 資産性コイン 50 年の実績

あたりまえの "希少品" はもとより
絶対的な激レア品を常に追求しています。

レアコインの最新情報と国際相場、
取引方法とお見積り等
ぜひ当社のスペシャリストまで ...

当社ではコイン販売のセミナー、勧誘はしておりません。本当に価値ある
コイン投資は個々の投資家の目的・ニーズにより異なるからです。資産保全の
ためのカウンセリング、アドバイスは随時承っておりますのでお尋ねください。

NGC・PCGS 公式認定ディーラー



WORLD COINS
JAPAN

1-15-5, HAMAMATSUCHO MINATO-KU,
TOKYO 105-0013 JAPAN
www.coins.co.jp
TEL 81-3-5777-0351 FAX 81-3-5777-0352
info@coins.co.jp

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-15-5 コープ浜松町 2 階 株式会社

ワールドコインズ・ジャパン

TEL 03-5777-0351
FAX 03-5777-0352

オークション・ワールドもよろしく！



〔1〕〔2〕〔6〕〔8〕〔9〕は縮小図〕

リスト

- ① 天正大判金 徳乗 元書 応談
- ② 享保大判金 典乗 元書 PCGS AU58 880万
- ③ 慶長小判金 前期 PCGS MS63 360万
- ④ 竜 50 銭銀貨 明治 13年 PCGS AU58 1,180万
- ⑤ 現行 100 円白銅貨 重ね打ちエラー 平成 4年 PCGS UNC-D 150万
- ⑥ 樋口 5000 円札 茶 A000001A 未 350万
- ⑦ 英国ゴチッククラウン銀貨 1853年 NGC PF62 950万
- ⑧ オーストリア 100 コロナ金貨
雲上の女神 PCGS PR62CAM 520万
- ⑨ オーストリア 100 コロナ金貨
1914年 ヨーゼフ NGC PF61CAM 380万

その他新入荷商品多数あります。
弊社ホームページより商品画像をご覧ください。

ブース No. G1~4

大切な収集品・重複品の処分をご検討の際は、是非弊社にご相談ください。

(株)新橋スタンプ商会

Shinbashi Stamp Co.Ltd.
本社 〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル3階
 ●営業時間/10時~17時 ●休業日/日曜・祝日
0120-478-548
 mail@shinbashistamp.co.jp
 WEB https://www.shinbashistampshokai.com



札幌支店
 〒054-0804 北海道札幌市中央区南4条西6丁目
 寺田ビル1F (東向)
 ■営業時間/10時~18時
 ■休業日/日曜日、第1・3土曜日 (臨時休業有)
 ✉ shinbashi-stamp-coin@mountain.ocn.ne.jp
0120-936-136



TICC ではブース No.C7~10 銀座コインへお越し下さい。

銀座コイン GINZA COINS

コインの専門店・銀座コインは江戸時代に造幣局があった銀座で古貨幣の売買一筋に57年。国内外のたくさんの貨幣を展示販売している楽しいお店です。コレクションを始める際のアドバイスや、お手持ちの貨幣を鑑定・評価し買取のご相談も受け付けています。是非一度足をお運びいただけますと幸いです。

東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ1F
TEL. 03-3573-1960
営業 11:00 ~ 18:30



書籍紹介



「お宝貨幣なんでも読本」好評発売中!

著者 株銀座コイン会長 竹内俊夫
(人気TV番組「開運なんでも鑑定団」鑑定士)

コーポレートサイト:
<https://ginzacoins.co.jp>



通販サイト:
<https://shop.ginzacoins.co.jp>



出品
受付中

第38回 銀座コインオークション

●令和8年11月21日(土) ●東京・帝国ホテル

「銀座コインオークション」は一定の手数料で、お手持ちのコレクションを公正にご処分いただける場所です。国内外の貨幣すべてを対象としております。ご出品をご希望される方はお気軽にご相談下さい。

第63回 日本コインオークション

12月12日(土) e-ライブ開催日(予定)
 12月13日(日) フロア・ライブ開催日 品川プリンスホテル メインタワー(予定)

出品物の一例



オーストリア 100コ罗纳金貨 1908年
 雲上の女神
 NGC PF63

独領ニューギニア
 20マルク金貨 1895年
 極楽鳥

ドイツ ハンブルグ
 ポルトガロッザー 10ダカウト金貨 1688年
 都市景観

イギリス ジョージ6世
 5ポンド金貨 1937年
 PCGS PR64DCAM

宝永永字丁銀
 日本貨幣協同組合
 鑑定書付 (画像50%)

万延大判金
 たがね打 吉字き
 PCGS MS63 (画像35%)

旧5円金貨 明治8年
 後期 止め明
 PCGS MS66PL

新20円金貨
 大正8年
 PCGS MS67

桜100円白銅貨
 昭和42年
 メクレラー

出品物随時募集中！！

出品方法・御相談・御質問は株式会社ダルマブースまたは↓へお問い合わせください。

●お問い合わせ先● Tel:03-3447-5855 Fax:03-3449-3344
 info@ncanet.co.jp www.ncanet.co.jp

オークションに出品は日本コインオークションへ
 査定・買取はダルマへ

SIXBID.COM
 EXPERTS IN NUMISMATIC AUCTIONS

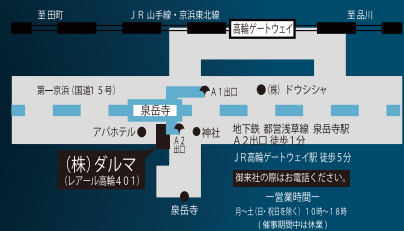
NumisBids



Daruma
 INTERNATIONAL GALLERIES

株式会社 ダルマ

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-32 レアル高輪401
 Tel:03-3447-5567 Fax:03-3449-3344
 info@darumacoins.co.jp www.darumacoins.co.jp



泰星オークション2026

5月30日(土) 10時 ~ 銀座フェニックスプラザにて開催



日本
旧 20 円金貨 JND A- 近 1
発行年: 明治 9 年 (1876 年) 重量: 33.33g
品位: .900 直径: 35.06mm 954 枚
NGC MS61 DPL 状態: ブループライク
スタート価格 ¥ 8,000,000



日本
竜 50 銭銀貨 JND A- 近 14
発行年: 明治 13 年 (1880 年) 重量: 13.48g 品位: .800
直径: 30.90mm PCGS MS62PL 状態: 極美/未ブループライク
スタート価格 ¥ 3,000,000

本社下見のご案内

泰星コイン 時間 10:00 ~ 17:00

TICC 期間中も実施いたしますので是非お越しください。

5月 1日(金) ~ 3日(日・祝)

5月 18日(月) ~ 22日(金)

5月 25日(月) ~ 29日(金)

下見をご希望の方はご来店前にお電話ください。

泰星コイン本社は土・日・祝日休業です。

下見や入札など詳細はお電話、Eメールでご連絡いただくか、
弊社 HP にて随時更新される情報をご確認ください。

オンラインによる事前入札も可能です。

*If you plan to visit during the preview period,
please call us in advance before coming.

*上記日程は予告なく変更する場合がございます。
予めご了承ください。

オークション当日の
会場下見は
実施いたしません。

開催前の本社下見にお越しくださいませ。



画像は10円金貨

現存 2 組、国宝級の試鑄貨セット

日本
英国王室造幣局鑄造試鑄貨 8 種揃ブルーセット
発行年: 明治 3 年 (1870 年) 作: レオナード・チャールズ・ワイオン
表面: 竜図 裏面: 旭日図 エッジ: プレーンエッジ
大珍品 状態: ブルーフ
スタート価格 ¥ 199,000,000



英国
ウィリアム 4 世像 2 ポンド金貨 KM718
発行年: 1831 年 重量: 15.97g 品位: .917 直径: 27.50mm
発行数: 225 枚 PCGS PR64DCAM 状態: ブルーフ
スタート価格 ¥ 5,000,000

泰星オークション
TAISEI AUCTION

オークション
専用
フリー
ダイヤル



0120-94-8650

オークション専用メールアドレス auction@taiseicoins.com

営業日時: 平日 (祝日除く) 9:00 ~ 17:30

泰星コイン株式会社
TAISEI COINS CORPORATION

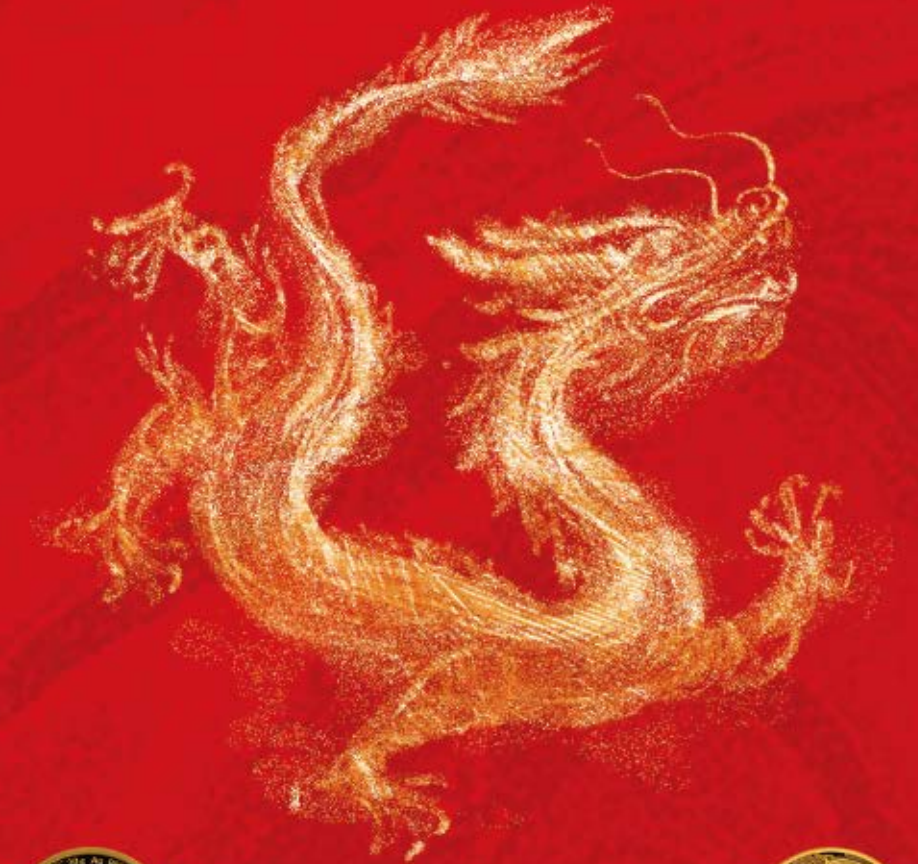
〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目9番4号西野金陵ビル1~3F
TEL 03-6735-2104 FAX 03-6735-2108
www.taiseicoins.com/auction/



auctions.taiseicoins.com



中国人民银行 发行
Issued by the People's Bank of China



 中国金币集团有限公司 总经销
Solely Distributed by China Gold Coin Group Co., Ltd.

<http://www.cgcd.cn> <http://www.chinagoldcoin.net>
Tel: (86)10 59311043 Fax: (86)10 58555974 Email: BICE@chngc.net

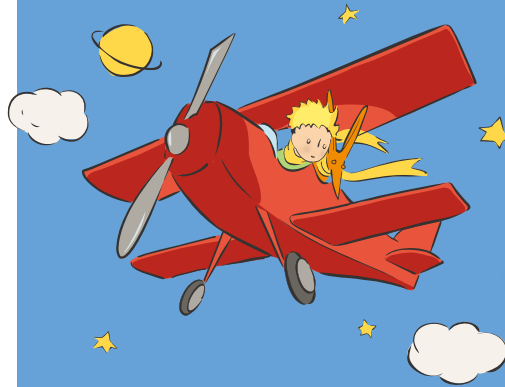
 中国金币集团有限公司 海外总经销
CHINA GOLD COIN GROUP CO., LTD. SOLE

中国长城硬币投资有限公司 OVERSEAS
China Great Wall Coins Investments Ltd. DISTRIBUTOR

香港皇后大道中183號中環大廈29字樓2901室
Unit 2901, 29/F., Cosco Tower, 183 Queen's Road Central, Hong Kong
電話 Tel: (852) 2543 3199 傳真 Fax: (852) 2854 0039
網址 Website: www.chinacoin.com.hk 電郵 Email: info@gwcoin.imsbiz.com.hk



Le Petit Prince



Le Petit Prince® / The Little Prince® / © Succession Antoine de Saint-Exupéry - 2026

EDITION
LIMITED

2€ BU COINS LITTLE PRINCE

4 different coincards with a mintage of 75 000 ex each

MONNAIE DE PARIS – 11 QUAI DE CONTI – 75006 PARIS – MONNAIEDEPARIS.FR

Coincards 2€ BU Little Prince - A (Desert) / 2€ BU Little Prince - B (Cloud) / 2€ BU Little Prince - C (Book) / 2€ BU Little Prince - D (Plane)

La Monnaie de Paris – EPIC – 160020012 RCS PARIS - Siège : 11 quai de Conti – 75006 PARIS.